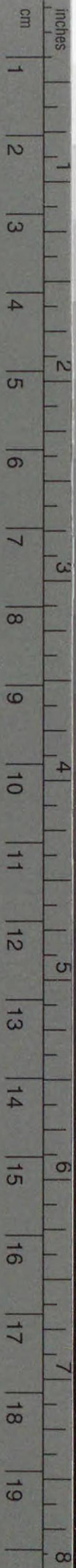


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

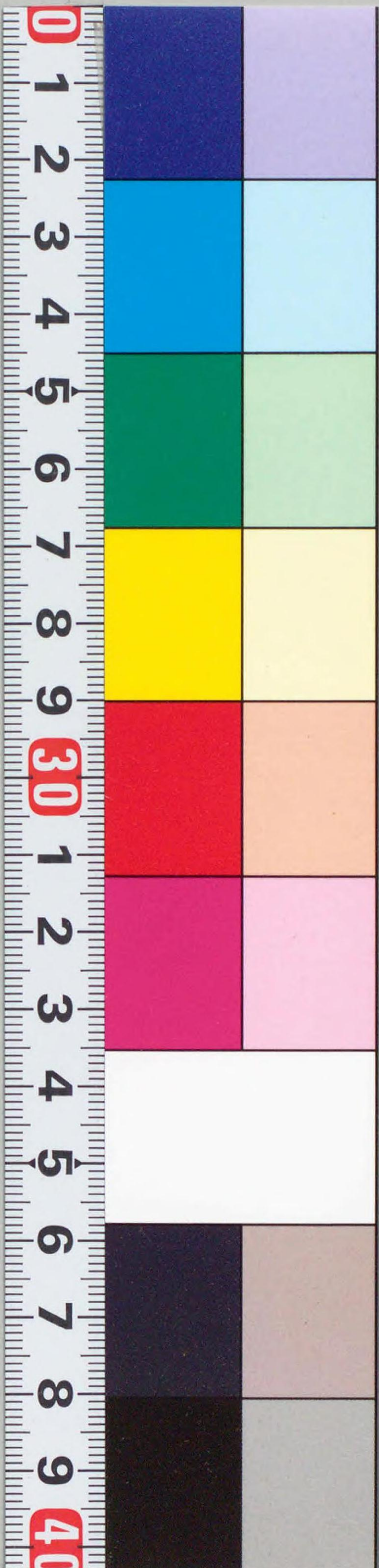
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

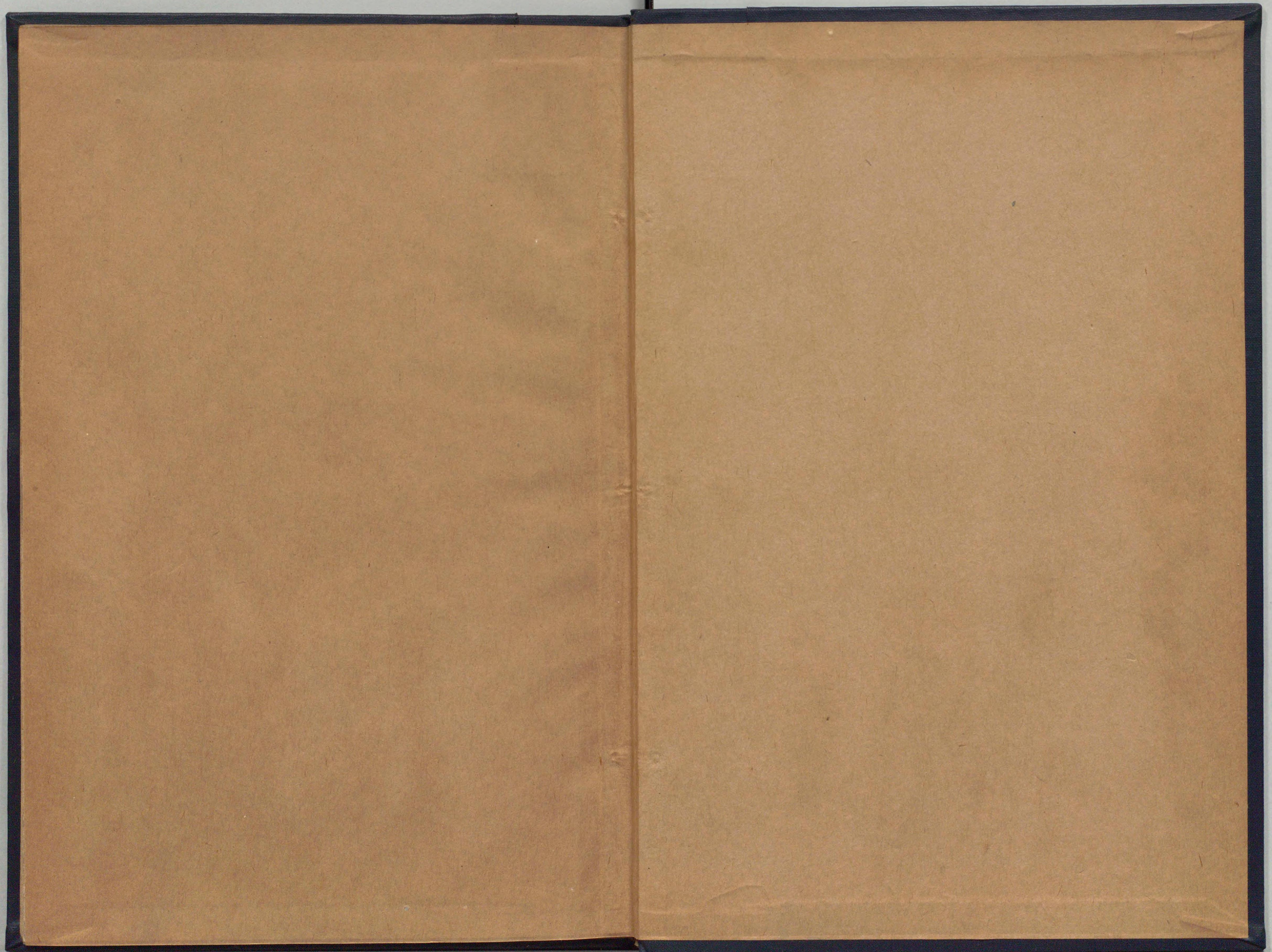
© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



BZ-5-01
1200901600172





143
51-

第三十四回(臨時)
帝國議會
衆議院記事摘要

第三十四回(臨時)帝國議會

衆議院記事摘要



衆議院事務局

大正
3. 12. 2
寄贈

局
寄贈本

BZ
5
01

第三十四回(臨時)
帝國議會
衆議院記事摘要

目次

第一章	召集、成立、開會、會期ノ延長及閉會	一頁
第二章	議長席	三
第三章	議員	四
第四章	全院委員長、常任委員及特別委員	一九
第五章	內閣	二〇
第六章	議事	二二
第一節	日獨事件、外交ノ經過大要並戰時財政計畫	二二
第二節	議案	三一

目次

一

第三節 議案ノ討議及表決……………三二

第一款 豫算案……………三二

一 大正三年度歳入歳出總豫算追加案……………三二

二 臨時軍事費豫算案……………三三

第二款 政府提出法律案……………五二

一 大正三年臨時事件ニ關スル臨時軍事費特別會計法案……………五二

二 輸入税率等ノ特例ニ關スル法律案……………五四

三 戰時海上保險ニ關スル法律案(戰時海上保險補償法案ト改題)……………五九

第三款 上奏案……………六三

開院式 勅語奉答文案……………六三

第四款 建議案……………六四

蠶絲業救濟ニ關スル建議案……………六四

第五款 請願(議院法第六十四條第)……………六八

一 軍人恩給法改正ノ請願外一件(特二)……………六九

第七章 質問及答辯……………七〇

二 棉花爲替取組ニ關スル請願(特二)……………六九

藥價暴騰ニ關スル件……………七一

第三十四回(臨時)
帝國議會 衆議院記事摘要

第一章 召集、成立、開會、會期ノ延長及閉會

大正三年八月二十三日臨時帝國議會召集ノ 詔書ヲ發セラル即チ左ノ如シ

朕軍國ノ急務ニ關シ帝國議會ノ協贊ヲ望ムモノアリ茲ニ帝國憲法第七條及第四十三條ニ依リ本年九月三日ヲ以テ臨時帝國議會ヲ東京ニ召集シ三日ヲ以テ會期ト爲スヘキコトヲ命ス

九月三日召集ニ應シタル議員ハ三百二十四名ニシテ補闕選舉ニ當選シタル議員ハ當選證書ノ對照

ヲ經午前十時各議員議場ニ集會ス議長奧繁三郎君ハ本回モ衆議院規則第十八條ニ依リ議席及部屬ニ必要ニ依リ或部分ノ議席ノ變更ヲ爲シタルノ外第三十三回(臨時)議會ノ通繼續スヘキ旨ヲ宣告

シ尙部長及理事モ前議會ノ通選舉セラレタルモノト認ムルコトト爲シ茲ニ本院成立シタルヲ以テ即日其ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報シタリ

議院成立スルヤ同日憲法第七條及議院法第五條ニ依リ九月四日ヲ以テ帝國議會ノ開會ヲ命セラル當日兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ 車駕親臨シテ開院ノ式ヲ行ハセラレ左ノ勅語ヲ賜ハリタリ
朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

歐洲戰亂ノ殃禍今ヤ東洋ニ波及シ朕ハ東洋永遠ノ平和ヲ保持セムカ爲終ニ獨逸國ニ對シ戰ヲ宣スルノ已ムヲ得サルニ至レリ

朕ハ帝國臣民カ義勇克ク公ニ奉シ一致和協速ニ交戰ノ目的ヲ達シ以テ國光ヲ宣揚セムコトヲ期ス朕ハ國務大臣ニ命シテ時局ニ關シ特ニ緊急ナル豫算案及法律案ヲ提出セシム卿等克ク朕カ意ヲ體シ和衷協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム

本院ハ式後直ニ開院式 勅語ニ對スル奉答文ヲ議決シ翌五日午前十一時議長參内鳳凰ノ間ニ於テ拜謁ヲ賜ハリ左ノ奉答書ヲ捧呈セリ

恭ク惟ニ

天皇陛下茲ニ臨時帝國議會ヲ召集シ

車駕親臨開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ 臣等感激ノ至ニ勝ヘス臣等肅ミテ 歡慮ヲ奉體シ慎重審議以テ協贊ノ任ヲ竭シ上

陛下ノ 聖旨ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコト期ス衆議院議長臣與繁三郎誠恐誠惶謹テ奏ス

右ノ奉答ニ對シ更ニ左ノ 勅語ヲ賜ハリタリ

朕衆議院ノ深厚ナル敬禮ヲ嘉ス

九月六日大隈内閣總理大臣ヨリ會期延長ノ 詔書ノ傳達アリタリ議長ハ當日會議ヲ開クニ先チ左

ノ 詔書ヲ捧讀セリ

朕九月九日迄三日間帝國議會會期ノ延長ヲ命ス

九日大隈内閣總理大臣ヨリ本月十日ヲ以テ帝國議會閉會式執行ノ旨 仰出サレタル通牒アリ當日議院法第二十六條ニ依リ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ閉會ノ式ヲ行ハセラル、大隈内閣總理大臣 勅旨ヲ奉シ左ノ 勅語ヲ捧讀シタリ

朕貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕本日ヲ以テ帝國議會ノ閉會ヲ命シ併セテ卿等勵精克ク朕カ意ヲ體シ軍國ノ急務ニ關シ協贊ノ任ヲ竭セルノ勞ヲ嘉獎ス

本會期ハ臨時會ニシテ大正三年九月四日ヨリ同年同月九日ニ至ル六日ヲ以テ會期トシ(會期延長共)其ノ間會議ヲ開キタルハ開院式當日乃至七及九ノ五日、委員會ヲ開キタルハ五乃至七ノ三日ニシテ八日ノ一日ハ之ヲ休會トシ議案全部ヲ議了セリ(但シ開院式前ノ集會一回ハ之ヲ除ク)

第二章 議長席

本會期ニ於テハ前會期ヨリ引續キ議長與繁三郎君、副議長關直彦君在任シ與議長ハ常ニ議長席ニ

著キ議事ヲ整理セリ但シ關副議長ハ祕密會議中一時代リテ着席シタルコト一回アリ
 會期終了ノ日(大正三年九月九日)散會ニ際シ與議長ハ左ノ慰勞ノ辭ヲ述ヘ且林田書記官長ヲシテ
 本期議會ノ成績ヲ報告セシメタリ

與議長ノ慰勞ノ辭

諸君、第三十四回議會ノ會期ハ本日ヲ以テ終了トナリシマタ、本年ハ頗ル多事ノ年デゴザイマシ
 テ、臨時議會モ屢々召集セラレマシタ、今期ノ議會ハ實ニ其第三次目デゴザイマシテ、帝國議會開
 設以來、第三回ノ軍國議會デゴザイマス、而シテ會期ハ延長トモ併セテ六日デ、至テ短期デアリ
 マシタガ、其ノ間會議ヲ開キマシタコトガ五回、重要ナル案件ヲ議了致シマシタ、特ニ臨時軍事
 費並ニ豫備費五千三百萬圓ヲ滿場一致ヲ以テ協贊ヲ與ヘラレマシタノハ、實ニ國民奉公ノ至誠
 ヲ表彰致シマシタルモノデアツテ、國家ノ爲ニ慶賀ニ堪ヘヌ次第デゴザイマス茲ニ諸君ノ連日
 ノ御勤勞ヲ謝シマスト共ニ、本職ハ諸君ノ御援助ニ依リマシテ、幸ニ大過ナク職務ヲ全ウ致シマ
 シタルコトヲ感謝致シマス、終ニ臨ミマシテ出征軍人ノ勞苦ニ對シテ滿腔ノ同情ヲ表シ且ツ速
 ニ交戦ノ目的ヲ達スルコトヲ祈ル次第デゴザイマス(下略)

第三章 議員

本會期ニ於ケル議員ノ氏名ハ左表ノ如シ(便宜ノ爲府縣順「いろは」別トシ氏名ノ上ニ議席、部屬、
 選舉區及黨派別ヲ掲ク、黨派欄内政ハ立憲政友會、國ハ立憲國民黨、同ハ立憲同志會、中ハ中正會、

無ハ無所屬ノ略ナリ)

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一〇二	八	東京市	政	稻茂登三郎君	七四	九	名古屋市	政	石黒 磐君
六二	八	大阪市	中	岩下 清周君	三五七	五	靜岡	政	伊東 要藏君
一一	三	大阪市	中	石橋爲之助君	一八七	理五	靜岡	政	岩崎 勳君
二六三	一	大阪府	同	岩崎安次郎君	三二四	三	山梨	國	市川 文藏君
三三〇	二	大阪府	政	井坂 光暉君	一七五	一	長野	政	伊藤 大八君
一一一	五	神奈川	政	井上篤太郎君	二〇三	七	長野	政	岩岡伊代治君
三	一	兵庫	國	伊藤 英一君	一七二	八	仙臺市	政	岩崎總十郎君
一二七	八	千葉	政	板倉 中君	二一九	三	福島	政	井深彦三郎君
六九	六	茨城	政	飯田新右衛門君	二〇九	三	青森	政	伊藤 祐一君
三七	四	宇都宮市	國	石田仁太郎君	四〇	六	山形	國	伊東 知也君
八六	二	栃木	政	石川 甚作君	三四四	五	秋田市	同	井上 廣居君
六八	一	奈良	政	岩本 平藏君	二五一	四	富山市	政	岩田 大中君
二〇六	四	四日市市	政	井上 敏夫君	三七六	九	島根	同	石田 孝吉君
					三八	八	岡山	國	犬養 毅君

一六六	九	熊本	政	原田十衛君	一五九	七	栃木	政	友常穀三郎君
一〇九	二	鳥取	政	西谷金藏君	一一三	二	山形市	政	戸狩權之助君
一七	二	岡山	國	西村丹治郎君	二二	三	金澤市	政	戸水寛人君
一二六	六	和歌山	政	西風重遠君	九四	八	下關市	政	豊福泰造君
三七二	六	佐賀	同	西英太郎君	二八八	三	高知	同	土井重吉君
一〇五	二	長崎	政	帆足隼太郎君	一一六	一	福岡	政	富田幸次郎君
二八〇	五	長崎	同	本田恆之君	一九四	四	小倉市	政	友枝梅次郎君
二六一	二	山梨	政	堀内啓治君	一六三	二	鹿兒島	政	富安保太郎君
一五二	七	福島	政	堀切善兵衛君	二三五	七	鹿兒島市	政	飛岡卯一郎君
三二二	六	山形	政	細梅三郎君	一四五	二	山形	政	長晴登君
一一二	八	鳥取	政	法橋善作君	二四八	四	京都	政	與繁三郎君
					二四六	八	京都市	政	岡田泰藏君
					八八	八	堺市	中	大西五一郎君

二六五	九	熊本	同	井手三郎君	一一一	二	岐阜	政	早川六三郎君
一一〇	四	徳島市	政	一坂俊太郎君	二九一	九	福岡	同	半谷清壽君
二一三	一	廣島	政	井上角五郎君	一六五	五	盛岡市	政	原敬君
二五	五	岡山	國	犬飼源太郎君	九〇	四	福井市	中	八田裕二郎君
三二八	六	京都市	無	濱岡光哲君	九三	四	鳥取市	政	濱本義顯君
三七七	一	對馬	同	早川鐵冶君	二八一	五	隱岐	同	原田赴城君
二〇〇	五	群馬	政	葉住利藏君	七〇	二	尾道市	中	橋本太吉君
二六六	九	茨城	同	原脩次郎君	一〇〇	三	廣島	中	花井卓藏君
一一〇	四	茨城	政	濱名信平君	八五	四	山口	政	早速整爾君
三一	二	三重	國	濱田國松君	三三八	五	徳島	政	林永太郎君
一八〇	三	愛知	政	春田祐清君	七九	七	香川	中	坂東勘五郎君
三六二	九	愛知	同	早川龍介君	四八	四	佐賀	政	林毅陸君
一九五	四	岐阜市	政	原眞澄君	一九二	六	宮崎	政	長谷川敬一郎君
									濱田政壯君

八〇	二二六	三五二	二二七	四六	二四	三五四	一四六	三三一	三七九	二七七	二四〇	六	三二一	一四七	三五九	
六	理三	三	七	九	七	七	八	九	八	二	三	三	七	八	三	
長野市	長野市	三重	三重	千葉	千葉	埼玉	埼玉	新潟	新潟	新潟	兵庫	東京	熊本	愛媛	山口	
中政	政	同	政	中	國	同	政	政	同	同	政	中	同	政	政	
風間禮助君	笠原忠造君	加賀卯之吉君	川村曄君	加瀬禧逸君	柏原文太郎君	加藤政之助君	粕谷義三君	加藤勝彌君	川上淳一郎君	川合直次君	改野耕三君	片桐酉次郎君	渡邊祐策君	渡邊修君	渡邊國重君	
一八九	二五〇	三七五	一六八	一四	三三二	二八四			二九〇	二五二	四九	三〇八	一六九	五三	三三三	三〇六
三	九	四	五	七	六	五			八	二	六	五	八	六	四	長二
滋賀	愛知	栃木	栃木	千葉	長崎	兵庫			佐賀	佐賀	福岡	高知	徳島	山口	廣島	福島
政	政	同	政	政	政	同			同	政	政	同	政	政	無	同
吉田虎之助君	吉原祐太郎君	横尾輝吉君	横田千之助君	吉植庄一郎君	横山寅一郎君	横田孝史君			狩野雄一君	川原茂輔君	加藤新次郎君	片岡直温君	川真田徳三郎君	金子圭介君	金尾稜嚴君	河野廣中君

一三一	二七〇	一〇六	二一五	四五	三六九	六五	一八	九八	一六	一一九	一四八	一五六	一〇七	三四三
一	七	二	六	四	九	一	五	三	九	三	六	八	九	七
島根	鳥取	福井	長野	長野	岐阜	静岡市	愛知	三重	奈良	茨城	水戸市	埼玉	新潟	姫路市
政	同	政	政	中	同	中	國	中	國	政	政	政	中	同
小川藏次郎君	奥田柳藏君	大橋松二郎君	小川平吉君	岡部次郎君	岡崎久次郎君	尾崎元次郎君	大口喜六君	尾崎行雄君	奥山寛平君	太田直次君	小山田信藏君	大島寛爾君	大竹貫一君	大森與三次君
一二二	八三		一五三	三一七	三六	二二二	三〇五	四二	一九三	二三八	三六七	二二九		
五	一		六	五	九	四	八	五	七	六	五	八		
新潟市	横濱市		鹿兒島	福岡	福岡	高知	高知	高松市	徳島	和歌山	山口	山口		
政	政		政	同	國	政	同	中	政	政	同	政		
若杉喜三郎君	若尾幾造君		奥田榮之進君	大原義剛君	大内暢三君	岡田榮君	大石正己君	小田知周君	大久保弁太郎君	岡崎邦輔君	小河源一君	大岡育造君		

二三四	二〇七		二九八	一六四	一三三	九四	三六〇		四四	三一九		六〇	一六七	一五七	三〇四
四	七	(ね)	理八	六	七	六	二	(つ)	二	五	(そ)	一	四	一	九
茨城	群馬		大分	福岡	島根	青森	三重		北海道	秋田		小樽	鹿兒島	熊本	佐賀
政	政		同	政	政	政	同		政	同		政	政	政	同
根本正君	根岸曠太郎君		津末良介君	鶴原定吉君	恆松隆慶君	津島源右衛門君	辻寛君		園田實徳君	添田飛雄太郎君		高橋直治君	武満義雄君	高田露君	武富時敏君
二三九		(む)	二三〇	四一	二二六	二九	七	二二四	三四一	一四三	一〇四	三三五	二六八		三六一
六			一	六	八	七	九	三	長三	三	二	八	二		七
東京			福岡	徳島	和歌山	滋賀	奈良	千葉	新潟	長崎	長崎市	大阪	京都市		山梨
政			政	中	政	國	國	政	同	政	政	無	同		中
村野常右衛門君			永江純一君	中川虎之助君	中村啓次郎君	中小路與平治君	中山梅治郎君	長島鷺太郎君	中野貫一君	中倉万次郎君	永見寛二君	中辰之助君	中安信三郎君		根津嘉一郎君

二四三			二二二	三二三	一八五	六四	二六〇	五二	三一四	三二		一二五	三二九	一二	七六
四	二	二	八	一	六	長九	四	一	(ろ)	理九	一	六	八		
前橋市	埼玉	新潟	新潟	長崎	兵庫	京都	東京	東京市		福岡	石川	福井	福島		
政	國	政	政	中	政	政	無	國		政	政	國	政		
竹越與三郎君	田中左司馬君	田邊熊一君	高橋光威君	田川大吉郎君	高鍋篤郎君	田中數之助君	高木正年君	高木益太郎君		吉原正隆君	米田穰君	吉田圓助君	吉田定之助君		
二四二	二七二	九二	二七一	九一	二一〇	二二七	一五一	三六五	六七	五六	一五	八二	九六	一二九	
八	一	八	四	二	八	一	二	九	長一	一	五	三	四	九	
愛媛	愛媛	松山市	島根	富山	富山	福井	秋田	山形	宮城	岐阜	静岡	愛知	栃木	群馬	
政	同	中	同	中	政	政	政	同	政	中	國	中	政	政	
武市庫太君	武内作平君	高野金重君	高橋久次郎君	田中清文君	武部其文君	高島茂平君	田中隆三君	竹村欽次郎君	田代進四郎君	高橋義信君	高柳覺太郎君	田中善立君	田村順之助君	高津仲次郎君	

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三三三	五	山口	無	久保通猷君
一八八	長四	福岡	政	藏內治郎作君
二八五	九	神奈川	同	山宮藤吉君
一一七	一	神奈川	政	安村竹松君
九七	五	佐渡	政	山本悌二郎君
三四二	長六	高崎市	同	矢島八郎君
二四一	六	奈良市	政	八木逸郎君
五〇	一	岐阜	中	安田伊左衛門君
三七四	二	長野	同	矢島浦太郎君
一九〇	一	石川	政	山本七朗君
八	三	岡山	國	山谷虎三君
二七九	理六	廣島	同	山道襄一君
四三	八	愛媛	政	矢野莊三郎君
二七八	二	熊本市	同	山田珠一君
三六八	七	東京市	同	松下軍治君
五七	七	神戸市	中	松方幸次郎君
一八四	一	兵庫	政	丸尾光春君
二三一	八	新潟	政	増田義一君
六三	四	新潟	政	丸山豊治郎君
一九一	七	津市	中	松本恆之助君
三一	理四	三重	政	松本宗吾君
三二	一	静岡	政	松城兵作君
一〇三	八	静岡	政	松浦五兵衛君
七三	六	岐阜	中	牧野彦太郎君
一〇五	五	福島	政	松本孫右衛門君
三八〇	五	秋田	同	町田忠治君
一三二	八	石川	政	松田吉三郎君
三四五	七	石川	同	眞館貞造君
一七九	三	香川	政	増田穰三君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三五五	三	大阪市	國	紫安新九郎君
二二一	五	群馬	政	武藤金吉君
二五九	五	奈良	政	村井善四郎君
五一	一	大津市	中	村田虎次郎君
三〇一	七	宮城	同	村松龜一郎君
三〇	六	愛媛	國	村松恆一郎君
二五八	八	東京	政	漆昌巖君
一五五	五	大阪	政	植場平君
一七〇	四	千葉	政	鶴澤總明君
二八六	五	千葉	同	鶴澤宇八君
一四四	八	富山	政	上埜安太郎君
三五八	七	東京市	同	藏原惟郭君
三四七	二	東京市	同	黒須龍太郎君
一三九	三	若松市	政	日下義雄君
三三九	四	巖手	政	工藤吉次君
二九三	九	青森	同	工藤善太郎君
二五七	四	山形	政	熊谷直太君
一三四	四	福島	政	熊谷五右衛門君
二五五	七	廣島市	政	申本康三君
三四八	理二	山口	同	國光五郎君
三五	八	神戸市	國	野添宗三君
一四一	一	長崎	政	則元由庸君
三五〇	六	富山	同	野村嘉六君
一七四	九	福岡	政	野田卯太郎君

二六	二二六	三一〇	二五三	二九六	三四	四五	三五七	二六	二二六	三一〇	二五三	二九六	三四	四五	三五七
八	九	一	六	三	八	五	二	八	九	一	六	三	八	五	二
沖繩	宮城	大阪	兵庫	埼玉	茨城	栃木	名古屋	沖繩	宮城	大阪	兵庫	埼玉	茨城	栃木	名古屋
國	政	政	政	政	同	同	同	國	政	政	政	政	同	同	同
小西和君	遠藤良吉君	秋岡義一君	安藤新太郎君	綾部惣兵衛君	相島勘次郎君	阿由葉鎗三郎君	安東敏之君	護得久朝惟君	江藤哲藏君	江副靖臣君	江藤哲藏君	江藤哲藏君	江藤哲藏君	江藤哲藏君	江藤哲藏君

二〇八	二九五	三三六	一一五	三六六	二七五	五四	二二三	六六	二〇八	二九五	三三六	一一五	三六六	二七五	五四	二二三	六六
九	七	五	一	四	五	長七	六	七	九	七	五	一	四	五	長七	六	七
神奈川	埼玉	千葉	愛知	宮城	巖手	松江市	岡山	大島	神奈川	埼玉	千葉	愛知	宮城	巖手	松江市	岡山	大島
政	同	無	政	同	同	政	政	政	政	同	無	政	同	同	政	政	政
福井準造君	福田又一君	福澤桃介君	福岡精一君	藤澤幾之輔君	福田善三郎君	福岡世徳君	福井三郎君	麓純義君	松家徳二君	的野半介君	松田源治君	松村時次君	松家徳二君	的野半介君	松田源治君	松村時次君	松村時次君

二九九	一九九	二〇二	二八二	二六二	一四二	二〇一	三〇七	一三〇	一九九
九	二	七	三	一	九	一	三	七	二
兵庫	茨城	愛知	愛知	長野	秋田	香川	高知	大分	大分
同	政	政	同	政	政	政	政	政	政
水野正己君	宮古啓三郎君	三輪市太郎君	三浦逸平君	三浦盛徳君	翠川鐵三君	三土忠造君	光森徳治君	箕浦勝人君	三浦覺一君

三五五	二二一	一四	二二二	六一	三七一	一三六	一一八	三四九	一九
八	三	九	九	一	六	二	五	二	八
神奈川	愛知	滋賀	島根	丸龜市	愛媛	高知	鹿兒島	兵庫	京都市
同	政	國	政	政	同	政	政	國	同
神藤才一君	清水市太郎君	柴田源左衛門君	島田俊雄君	白川友一君	清水隆徳君	白石直治君	志々目藤彦君	平井熊三郎君	平野龜之助君

二二三	一四九	一八一	一七三	一五四	三一六	二〇五	二七四	一二三	二四九	三一八	一九七	三七八	一〇八
七	四	二	長五	八	七	四	七	九	一	八	一	四	五
埼玉	埼玉	埼玉	甲府市	岐阜	岐阜	宮城	巖手	山形	秋田	秋田	廣島	和歌山市	愛媛
政	政	政	政	政	同	政	同	政	政	同	政	同	中
指田義雄君	齋藤安雄君	齋藤珪次君	佐竹作太郎君	佐々木文一君	坂口拙三君	澤來太郎君	柵瀬軍之佐君	佐藤信古君	神田清兵衛君	齋藤宇一郎君	佐々木仙一君	阪本彌一郎君	才賀藤吉君

三六三	八九	七八	二一八	三〇二	二〇四	一九六	二二四	二二四	二九四	二一七	七一
七	三	三	一	四	五	二	二	二	二	九	七
京都	大阪	弘前市	高岡市	大分	北海道	沖繩	鹿兒島	新潟	新潟	東京市	大阪市
同	中	中	政	同	政	政	政	同	同	中	政
木村良君	菊池侃二君	菊池武徳君	木津太郎平君	木下謙次郎君	木下成太郎君	岸本賀昌君	柚木慶二君	目黒孝平君	三輪信次郎君	三輪信次郎君	三谷軌秀君

議席部屬	選舉區	黨派	氏名
二二三	門司市	國	土方千種君
一三八	福岡	政	樋口典常君
二六七	熊本	同	平山岩彦君
三二六	宮崎	無	肥田景之君
四七	鹿兒島	政	平田禎君
一〇一	鹿兒島	政	肥後靜雄君
七二	函館區	中	平出喜三郎君
八七	東京	政	森久保作藏君
三二〇	東京	政	望月右内君
一六〇	三重	政	森茂生君
八一	愛知	中	森田小六郎君
一九八	滋賀	政	森川源吾君
二九七	富山	同	森丘覺平君

議席部屬	選舉區	黨派	氏名
九	岡山	國	守屋此助君
二四四	廣島	政	森田俊左久君
一六二	廣島	政	望月圭介君
二二八	大分	政	元田肇君
三九	東京市	國	關直彦君
三三四	千葉	無	關和知君
五九	茨城	政	關信之介君
一七一	靜岡	政	清峯太郎君
二五四	宮崎	政	瀬戸山清彦君

議席部屬	選舉區	黨派	氏名
二七三	福島	同	鈴木寅彦君
一三五	巖手	政	鈴木巖君

(も)

(せ)

(す)

二九二	靜岡	同	杉山東太郎君
一八六	宮城	政	菅原傳君
二七六	福島	同	鈴木萬次郎君

召集前辭職シタル者一名アリ即チ沖繩縣選出高嶺朝教君ハ大正三年八月一日ヲ以テ辭職シタリ
 右ニ對シテ議長ハ議院法第八十四條ニ依リ補關選舉ヲ請求シ護得久朝惟君ハ八月二十日衆議院議員選舉法第七十八條第二項ニ依リ當選シタリ

第四章 全院委員長、常任委員及特別委員

本會期ニ於テハ全院委員長及常任委員ノ選舉ハ其ノ手續ヲ省略シ前議會ノ全院委員長及常任委員ヲ其ノ儘本會期ニ於テ選舉シタルモノト認メタリ
 本會期ニ於テ特別委員ノ選舉ヲ行ヒタルハ總テ五、其ノ數ハ孰レモ十八名トシ議長指名ノ方法ヲ採レリ

常任委員及特別委員中辭任シタル者各一名アリ而シテ之カ補關選舉ハ常任委員ニ在リテハ其ノ選

出部ニ於テ之ヲ行ヒ、特別委員ニ在リテハ議長之ヲ指名シタリ
 又常任委員中召集ニ應セサル者二名アリ之ヲ補闕選舉亦其ノ選出部ニ於テ之ヲ行ヒタリ
 本會期中全院委員會ハ之ヲ開カス、常任委員會ノ開會度數ハ豫算委員會三回、決算委員會一回
 (委員長及理事互選會)懲罰委員會一回(同上)、請願委員會一回ニシテ特別委員會ハ十回トス
 委員ノ氏名並付託件名ハ附録ニ掲載セリ

第五章 內閣

本會期ハ前會期ト同シク大隈內閣ニシテ其ノ閣員ハ左ノ如シ

內閣總理大臣兼	伯爵	大隈重信君
內務大臣	子爵	大浦兼武君
農商務大臣	男爵	加藤高明君
外務大臣		岡市之助君
陸軍大臣		八代六郎君
海軍大臣		若槻禮次郎君
大藏大臣		

三年九月三日(召集當日)本會期中ニ於ケル政府委員トシテ左ノ如ク任命セラレタリ

文部大臣	博士	一木喜徳郎君
司法大臣		尾崎行雄君
逓送大臣		武富時敏君

政府委員

法制局長官 法學博士 高橋作衛君

外務省所管事務政府委員

外務次官 松井慶四郎君

大藏省所管事務政府委員

外務省政務局長 小池張造君

大藏省所管事務政府委員

大藏次官 濱口雄幸君

陸軍省所管事務政府委員

大藏省主計局長 市來乙彦君

陸軍省所管事務政府委員

陸軍次官 菅原通敬君

海軍省所管事務政府委員

陸軍主計總監 大島健一君

海軍省所管事務政府委員

海軍次官 隈徳三君

農商務省所管事務政府委員

海軍主計總監 鈴木貫太郎君

農商務省所管事務政府委員

農商務次官 志佐勝君

農商務省商工局長

農商務省商工局長 上山滿之進君

遞信省所管事務政府委員

遞信次官 中谷弘吉君
遞信省通信局長 田中次郎君

二十二

第六章 議事

第一節 日獨事件、外交ノ經過大要並戰時財政計畫

開院式後第一日即チ九月五日大隈内閣總理大臣ハ日獨事件ニ關シ演說ヲ爲シ加藤外務大臣ハ日獨國交ノ斷絶ヨリ交戰狀態ニ至リタル經過並日獨兩國ノ關係斷絶シタル經過ノ大要及帝國政府ニ對スル米國政府ノ態度ヲ述ヘ次テ若槻大藏大臣ハ戰時財政計畫ニ付演說ヲ爲セリ左ニ之ヲ掲記セム
大隈内閣總理大臣ノ演說

諸君、歐洲列強戰亂ノ時局ニ當リマシテ、軍國ノ急務ノ爲ニ召集セラレマシタ當議會ニ於テ、諸君ト共ニ聖謨ヲ贊襄スルノ責任ヲ有シマスノハ本大臣ノ光榮ト致スコロデゴザイマス、同時ニ又日夜憂慮ニ堪ヘナイトコロデゴザイマス、諸君、帝國ガ東洋永遠ノ平和ヲ保持致ス爲メ、同盟ノ誼ニ依リマシテ、竟ニ獨逸國ト戰ヲ交ユルノ已ムヲ得ザルニ至リマシタノハ洵ニ遺憾トスルトコロデアリマス、此ノ局ニ對シマスル帝國ノ公明ナル態度ト、篤厚ナル信義トハ、列國民ノ均シク諒トスルトコロデアルト信ジマス、今日ノ場合ニ於キマシテハ、唯和衷協同聖旨ヲ奉體致

シマシテ交戰ノ目的ヲ達シ、速ニ平和ノ克復ヲ期シマスルコトハ、國民皆志ヲ同ジウスルトコロデアルベキコトハ、本大臣ノ信ジテ疑ハザルトコロデアリマス、政府ハ聖旨ヲ奉ジマシテ、軍國ノ急務ニ應ズル爲メ、必要ナル豫算案並ニ法律案ヲ提出致シマシタ、諸君ハ公平ナル審議ヲ悉サレマシテ、速ニ協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス、今ヤ陛下ノ陸海軍人ハ、艱苦ヲ冒シマシテ其忠勇ヲ表ハシツ、アルノデアリマス、本大臣ハ此秋ニ際シマシテ、優渥ナル聖勅ヲ奉ゼラレマシタル諸君ト共ニ、聖旨ノ厚キニ酬イ奉ランコトヲ期スル次第デゴザイマス

加藤外務大臣ノ演說

諸君、本大臣ハ茲ニ諸君ニ向ッテ今回日獨兩國ノ間ニ於ケル國交ガ斷絶シテ交戰狀態ニ至リタル經過、並ニ此レニ關聯シテ日獨兩國間ノ干係斷絶ニ至リタル經過ノ概要ヲ御報道致シマス、諸君ノ夙ニ御承知ノ如ク、今回ノ歐洲戰亂ハ其基ヲ獨逸國、塞爾比ノ干係ニ發シマシテ、獨逸國ハ塞爾比ニ對シ、去ル七月二十八日宣戰ノ布告ヲナシ、右ノ次第ハ同日ヲ以テ獨逸國政府ヨリ同國駐劄ノ我特命全權大使ニ口上書ヲ以テ通知サレマシタ、是ヨリ先キ露國ハ獨逸國ノ塞爾比ニ對スル行爲ヲ控制スルノ目的ヲ以テマシテ、動員ヲ爲シ、獨逸國モ之ニ應ジテ動員ヲ行ヒ此ノ如クシテ強國間ノ形勢ハ甚ダ危急ヲ告グルニ至リマシタ、此ニ於テ英國ハ英、佛、獨、伊四箇國ノ會議ニ依ッテ時局ヲ平和ニ解決センコトノ提議ヲ爲シマシタ、ケレドモ此議ハ關係諸國ノ容ル、所トナラズ、英國ノ盡力ハ遂ニ無効ニ歸シタ次第デアリマス、而シテ獨逸國ハ遂ニ全軍ノ動員ヲ行ヒ其報道ノ露國ニ達スルヤ、露國モ亦軍事的措置ヲ擴大スルノ必要ニ迫ラレタ様子デアリマス、七月三十一日獨逸國政府ハ露國ノ政府ニ對シテ、翌八月一日正午マデニ、軍事的措置ヲ總テ中止スルニアラズンバ、獨逸モ總動員ヲ行フト云フコトヲ通知ヲ爲シタ、尋デ八月一日、在露都獨逸大使ハ本國政府ノ名ヲ以テ、露國外務大臣ニ宣戰ノ旨ヲ傳ヘマシタ、露國モ之ニ應ジテ、翌二日ヲ以テ獨逸ニ對シテ宣戰ヲ致シマシタ、獨逸ハ又一方ニ於テ、七月三十一日以來佛獨國境ニ於テ軍事的行動ヲ爲シ、其在佛大使ヲ召還致シマシタルガ故ニ、佛國モ亦動員ヲ爲スニ至リマシタ、其在伯林ノ大使ヲ召還シテ、佛獨ノ兩國ハ終ニ交戰狀態ニ入ッタ次第デアリマス、獨逸ハ又蘆森堡ノ中

立ヲ侵シマシタノミナラズ、更ニ白耳義ニ向ッテ最後通牒ヲ發シテ、獨逸ノ佛國ニ對スル軍事行動ヲ容易ナラシムルガ爲ニ、白耳義ノ中立ヲ侵害スルノ已ヲ得ザルニ至リマシテ、其事ヲ甘受セヨト云フコトノ申出ヲ致シマシタ、而シテ英國ハ白耳義ノ中立ニ關シテハ、從來重大ナル利害干係ヲ有ッテ居リマスルガ故ニ、此事ヲ聞クヤ白耳義ノ中立ニ關シテ、佛獨兩國政府ニ照會ヲシテ其意嚮ヲ尋ネタトコロガ、佛國ハ英國ノ問合ニ對シテ、其他國ニシテ白耳義ノ中立ヲ侵ササル以上ハ、佛國モ亦之ヲ尊重スルト云フ答ヲ致シタ、之ニ反シテ獨逸ハ英國ノ要求スルトコロノ保障ヲ與フコトヲ拒ミマシタ、斯ル成行ノ下ニ英國ハ終ニ獨逸ニ對シテ露、佛、兩國ノ側ニ立ッテ歐洲戰爭ニ參加スルニ至リマシタ次第デアリマス、以上申述ベタ所ハ今回ノ戰亂ガ、始メ埃塞ノ葛藤ニ基テ發シテ、遂ニ獨逸對露佛英ノ三國間ノ對戰ヲ見ルニ至リマシタ徑路ノ大要デアリマス、帝國政府ニ於テハ、最初埃塞國間ノ關係ガ、延テ露獨間ノ交渉トナリ、歐洲ニ於ケル風雲ノ轉々急ナルヲ見マシテ、前途ノ發展ニ對シテ憂慮措ク能ハザル次第デアリマシタガ、先以テ其際内外ニ對スル帝國ノ態度ヲ宣明スルノ必要ヲ認メテ、八月四日次ノ如キ聲明ヲ帝國外務省ヨリ公示スルニ至リマシタ、公示ヲチヨット朗讀致シマス

帝國政府ハ歐洲政局ノ最近ノ形勢ニ對シ政治上及經濟上憂慮ノ念ヲ禁ズル能ハス而シテ帝國政府ノ切ニ冀望スル所ハ右紛争カ一日モ早ク解決ヲ告ケ平和ノ克復ヲ見ルニ在ルコト固ヨリ言フ俟タスト雖モ不幸現時ノ戰局カ繼續スル以上帝國政府ハ右戰局カ可成紛争ノ現ニ感染セル地方以外ニ波及セザランコトヲ冀望シ且帝國政府ハ嚴正中立ノ態度ヲ確守シ得ヘキコトヲ期待スルモノナリ然リト雖モ時局今後ノ轉變ニ就テハ最モ細心ノ注意ヲ要スルモノアリ萬一英國ニシテ戰爭ノ渦中ニ投スルニ至リ且日英協約ノ目的或ハ危殆ニ瀕スル等ノ場合ニ於テハ日本ハ協約上ノ義務トシテ必要ナル措置ヲ執ルニ至ルコトアルヘシ此ノ如キ時期ノ遂ニ到著スヘキヤ否ヤハ今日固ヨリ豫言シ得サル所ナルノミナラス帝國政府ハ斯ル場合ノ發生セザルコトヲ切ニ冀フモノナリト雖モ政府ハ諸般ノ情勢ニ對シ現ニ慎重ナル注意ヲ加ヘツ、アリ此公示ニ依ッテ明デアリマスル通りニ、帝國政府ハ初メヨリ歐洲戰亂ノ餘波ガ極東ニ波及スルコ

トナキヲ切ニ冀望シタノデアリマスガ、前ニ申述ベタ如ク、英國ガ竟ニ此戰爭ニ參加スルヲ餘儀ナクセラル、ニ至リ、其結果トシテ八月ノ初旬以來、英國政府ハ日英同盟協約ノ規定ニ基キ、相當ノ援助ヲ與ヘラレンコトノ申出ヲ帝國政府ニ爲サレタノデアリマス、蓋シ東亞ノ海面ニハ獨逸ノ艦艇ガ頻ニ出沒致シテ、英國ノ海上貿易ハ甚ダ不安ノ状態ニ陥リマシタ、本邦ノ海上商業モ亦障害ヲ受クルコト決シテ尠ナカラヌ有様デアリマシタ、且又獨逸ノ極東租借地タル膠州灣ニ於テハ、日夜戰備ヲ修ムルニ汲汲トシテ、同地ヲ以テ獨逸ノ東亞ニ於ケル策戰ノ根據地ト爲サント致シマシタ、是ガ爲メ極東平和ノ維持ハ頗ル困難ト相成リマシタ、日英同盟協約ハ諸君ノ熟知セラルルガ如ク、東亞全局ノ平和ヲ確保スルコト、支那ノ獨立ト領土ノ保全、同國ニ於ケル機會均等主義ヲ確實ニスルコト、及東亞ニ於ケル日英兩締盟國ノ領土權ヲ保持シ、其特殊利益ヲ防護スルヲ以テ目的ト致シテ居リマスガ故ニ、東亞方面ニ於テ英國ガ帝國ト均シク其特殊利益ノ一ナリトシテ、最モ重キヲ措クトコロノ通商貿易ガ、敵國ノタメニ威嚇ヲ受クルニ方リ、我政府ニ援助ノ申込ガアツタ以上ハ、該同盟ヲ以テ外交ノ樞軸トスルトコロノ帝國ニ於テハ、固ヨリ其要求ニ應ジテ相當ノ力ヲ致サナケレバナラヌ次第デアリマス且動モスレバ日英同盟ト利害ノ方嚮ヲ異ニスル獨逸國ガ、其勢力ノ根據ヲ絶東ノ一角ニ持ッテ居リマスルコトハ、實ニ東亞ノ平和ヲ永遠ニ確保スル上ニ於テ、甚ダシキ障礙ナルノミナラズ、又實ニ帝國ノ利害ニ背反スルモノト認メマシタ故ニ政府ハ英國ノ要求ニ應ジ、獨逸國ト開戰スルノ避クベカラザルモノアルコトヲ決心致シマシタ、闕下ニ伏奏シテ御允裁ヲ仰ギマシタル後ニ、英國ニ對シテ我政府ノ決意ヲ告ゲ、其後兩國政府間ニ十分隔意ナキ協商意見ノ交換ヲ遂ゲマシタ後、同盟協約ノ豫期スル全般ノ利益ヲ防護スルガタメニ相當ノ措置ヲ執ルハ極メテ必要ナリト云フ議ヲ決スルニ至リマシタ、元來帝國ハ自ら進ンデ今回ノ戰亂ノ渦中ニ投ゼントスルノ意思ノ無ッタコトハ申スマデナク、唯東洋永遠ノ平和ヲ確保シ、同盟國特殊ノ利益ヲ防護シ、次テ同盟ノ誼ヲ重ンジ、協約ノ基礎ヲ牢固ナラシムルト云フコトハ、帝國ノ責務ナリト信ジタノデアリマス、然レドモ帝國政府ハ此際ニ方ッテ尙平和ノ手段ヲ以テ、其目的ヲ達シ得ベクンバ、此上結構ナコトハ無イト云フ考ヲ以テ、誠意

ヲ以テ、一應ノ勸告ヲ獨逸政府ニ試ムルコトニ決シマシタ、八月十五日ヲ以テ次ノ如キ勸告ヲ獨逸政府ニ致シマシタ

帝國政府ハ現下ノ狀勢ニ於テ極東ノ平和ヲ紊亂スヘキ源泉ヲ除去シ日英同盟協約ノ豫期セル全般ノ利益ヲ防護スルノ措置ヲ講スルハ該協約ノ目的トスル東亞ノ平和ヲ永遠ニ確保スルカ爲ニ極メテ緊要ノ事タルヲ思ヒ茲ニ誠意ヲ以テ獨逸帝國政府ニ勸告スルニ同政府ニ於テ左記二項ヲ實行セラレムコトヲ以テス

第一

日本及支那海洋方面ヨリ獨逸帝國艦艇ノ即時ニ退去スルコト退去スルコト能ハサルモノハ直ニ其武裝ヲ解除スルコト

第二

獨逸帝國政府ハ膠州灣租借地全部ヲ支那ニ還付スルノ目的ヲ以テ千九百十四年九月十五日ヲ限リ無償無條件ニテ日本帝國官憲ニ交付スルコト

日本帝國政府ニ於テ敍上ノ勸告ニ對シ千九百十四年八月二十三日正午迄ニ無條件ニ應諾ノ旨獨逸帝國政府ヨリノ回答ヲ受領セサルニ於テハ帝國政府ハ其必要ト認ムル行動ヲ執ルヘキコトヲ聲明ス

此勸告ヲ致シマシタトコロガ、所定ノ期日タル八月二十三日正午ニ至ルモ、獨逸政府ヨリ何等ノ回答ニ接シナカッタノデアリマス、從テ兩國ハ不幸ニシテ其國交絶チ交戰狀態ニ入ルコト、相成リマシタ、八月二十三日午後ヲ以テ獨逸ニ對スル宣戰ノ大詔ハ煥發セラレタルコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、又獨逸國ニ對シテハ同國ニ於テハ、東洋ニ於テ有スルトコロノ利害關係ガ甚ダ鈔ナク、今回ノ戰亂ハ其基ヲ獨逸國對塞爾比事件ニ發生セルニ拘ラス、帝國ノ立場ハ右紛爭ノ次第ニハ何等關係ヲ有シマセヌガ故ニ、帝國ハ獨逸國ニ對シテハ成ルベク平和關係ヲ持續シタイト云フ希望ヲ持ッテ居リマシタシ、同國ニ於テモ亦努メテ帝國トノ葛藤ヲ避クルノ意思ヲ持ッテ居ラレタモノ、如クデアリマス、現ニ日獨兩國間ニ交戰狀態ノ成立タントスル秋ニ際シ

テ、獨逸國政府ハ帝國政府ニ對シ、日獨兩國間ニ交戰ヲ餘儀ナクスルニ至ルベキ唯一ノ原因タル同國軍艦「カイゼリン、エリサベト」ガ東洋ニ在ルコトニ言及シマシタ、其軍艦ハ中立港タル上海ニ廻航シテ、日獨兩國ニ交戰ノ繼續セラル、間、武裝ヲ解イテ上海ニ繫留シテ置キタイ、就テハ膠州灣ヨリ上海ニ至ル航路ノ安全ヲ帝國政府ニ於テ保障サレタイト云フ申出ガアリマシタ、帝國政府ニ於テハ前申ス如ク獨逸國トノ間ニハ何等戰ヲ爲ス原因ヲ有セズ、又必要ヲモ感ジマセヌガ故ニ、成ルベクハ其請ニ應ジテ「カイゼリン、エリサベト」ヲ上海ニ廻航セシメタイト云フ希望ヲ持チマシタケレドモ、當時我同盟國タル英國ノ軍艦ハ、既ニ我艦隊司令長官ノ指揮ノ下ニ在ッテ、他ノ方面ノ海洋ニ出動シテ居ル次第デアリマスカラ、我帝國ノ軍艦ハ獨逸國ノ軍艦ニ手出シラシナクトモ、英國軍艦ニハアレニ手出シラスルコトガアッテハ、帝國自身ノ希望ヲ達シナイ次第デアリマスカラ、先以テ英國政府ニ帝國政府ノ趣旨ヲ以テ相談致シマシタトコロ、英國ニ於テモ帝國政府ノ申出ニ應ジテ、或條件ノ下ニ獨逸國政府ノ依頼ニ英國政府ノ應ズルコトニ對シテ、異議ハナイト云フ返答ガアリマシタ、右ニ依テ將サニ獨逸國大使ニ對シ、本大臣ヨリ其旨ヲ通知セントセル其利那ニ於テ、獨逸國大使ハ本國政府ヨリ訓令ヲ受ケタトコロガ、自分ハ任地タル東京ヲ去ッテ歸國セヨト云フ命令ヲ受ケマシタ、就テハ旅行券ノ交付ヲ請求スルト申スコトデアリマシタ、是ニ依ッテ吾モ甚ダ遺憾ナル感ジヲ持チマシタケレドモ、既ニ其請求ガアル以上、固ヨリ拒ムベキモノデアリマセヌカラ、直ニ旅行券ヲ交付スルト同時ニ、在獨帝國大使ニ對シテモ、任國政府ニ對シテ同様ノ請求ヲ爲シテ歸國セヨト云フ命令ヲ發シタ次第デアリマス、以上申述ベマシタルトコロガ、今回ノ日獨開戰並ニ日獨外交關係斷絶ニ至リマシタル經過ノ大要デアリマス、尙此機會ニ於テ諸君ニ御報告申シテ置キタイノハ、今回ノ事變ニ際シ、米國政府ノ帝國政府ニ對シテ表明セラレタル厚意デアリマス、帝國政府ハ曩ニ日獨間ノ關係危殆ニ瀕スルヤ、米國政府ニ向テ若シ日獨兩國間開戰ノ場合ニ於テハ、獨逸ニ於ケル帝國ノ公館並ニ其臣民ノ保護ニ任セラレタイト云フコトヲ依頼致シマシタルトコロガ、米國政府ハ直ニ快ク承諾セラレ、其後日獨兩國間ノ國交斷絶スルニ及ビマシテ、再ビ在獨帝國公館並ニ帝國臣民ノ保護ヲ米國政府

ニ依頼致シマシタトコロガ、是亦其快諾ヲ得マシタ次第デ、爾來米國政府ニ於テハ我ガ敵國ニ殘留シマスルトコロノ帝國臣民ノ保護ニ付テ、非常ニ深ク配慮セラレテ居ル次第デアリマス、帝國政府ハ此米國政府ノ好意ニ對シ、深ク感謝スルモノナルコトヲ爰ニ表明致シマスルガ、諸君ニ於テモ定メテ御同感ト信ズル次第デアリマス、本大臣ハ帝國ガ獨逸國ニ對シ干戈ヲ執ルニ至リタルハ、深ク遺憾トスルモノデアリマスルガ、敬聖文武ナル天皇陛下ノ陸海軍ハ、既往幾多ノ戰役ニ於テ、其常ニ表彰シタリシ忠實勇武ヲ、今回モ亦遺憾ナク發揮スルコトヲ確信致シマシテ、速ニ平和ノ克復セラレンコトヲ諸君ト共ニ祈ルモノデアリマス

若槻大藏大臣ノ演說

諸君、私ハ茲ニ大正三年度歳入歳出總豫算追加案茲ニ臨時軍事費豫算案ヲ諸君ニ御紹介申上ゲル光榮ヲ有シマス、曩ニ歐洲列強ノ間、戰端ヲ開キマシテ、次デ東洋ノ局面モ亦危殆ニ瀕スルコトナリ、日獨ノ間遂ニ干戈ヲ執ッテ相見ニ至リマシタノハ、本大臣ノ遺憾禁ズル能ハザルトコロデアリマス、此間政府ハ苟モ帝國ノ威信ヲ維持シ、臣民ノ權利ヲ保全スルニ遺算ナカラシテ期シマシテ、勅裁ヲ經テ臨時必要ナル經費ヲ支出致シテ、以テ機宜ノ措置ヲ施シテ居リマシタガ帝國ノ財政上將來多大ノ費額ヲ要スルコトデアリマスカラ、茲ニ此度臨時ニ召集ニナリマシタ帝國議會ニ對シテ、前ニ申上ゲタ二ツノ豫算案ヲ提出シテ、諸君ノ御協賛ヲ仰ガントスル次第デアリマス、時局ニ關スル經費ノ豫算トシテ、今期議會ニ要求致シマストコロハ、陸海軍軍事費五千百萬圓、臨時事件豫備費二百萬圓、合計五千三百萬圓デアリマシテ、全部前年度剩餘金ヲ以テ之ヲ支辨スルノ計畫デアリマス、而シテ陸海軍軍事費ハ一般ノ政費ト區分シテ之ヲ整理シマスノガ必要デアリマスノミナラス、今後時局ノ變遷ニ應ジテ其事件ノ終局マデ一會計年度トシテ取扱ヒマスコト、猶明治二十七八年及明治三十七八年兩戰役當時ノ例ノ如ク致シマスコトガ、最モ時宜ニ適スルモノト認メマシテ、別ニ提出致シマシタル臨時軍事費特別會計法ノ制定ニ伴ッテ之ヲ特別會計トスル見込デアリマスカラ、前ニ述ベマシタトコロノ五千百萬圓ハ、一般會計カ

ラ之ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入レテ、同會計ノ所屬トシテ之ヲ軍費ニ支出セントスルモノデアリマス、又右軍事費ノ外、各省ニ於テ時局ニ關スル必要デアリマス經費ノ支出ヲ要スルモノガ少クアリマセヌケレドモ、是等ノ經費ハ自ラ局面ノ轉化ニ伴ッテ變更スルモノデアリマシテ、今日カラ豫メ其費途金額ヲ確定スルコトガ困難デアリマス、夫故ニ是モ亦明治三十七八年事件當時ノ先例ニ從ヒマシテ、臨機此等ノ經費ニ充ツルタメ、豫備費トシテ二百萬圓ヲ計上致シマシタ、右豫算額ノ外、時局ニ關シ必要避クベカラザル經費デアッテ、既ニ臨時支出ヲ致シマシタ金額ガ、千三百四十六萬二千五百五十二圓デアリマスカラシテ、前ニ述ベマシタ豫算ノ金額ト通算ヲ致シマスレバ、約六千六百餘萬圓ニ達スル計算デアリマス、而シテ右臨時ニ支出致シマシタ金額ノ中デ、約百五十萬圓ハ第二豫備金ノ支辨ニ係ッテ居リマシ、其他ノ金額ハ國庫剩餘金ノ支辨ニ係ッテ居ルデアリマス、抑、帝國ノ財政上、各種ノ整理ヲ必要トスルノ秋ニ方リマシテ、不幸ニシテ、友邦ト戰ヲ交ヘテ、多額ノ軍事費ヲ支出スルコトノ已ムヲ得ザルニ至リマシタコトハ、政府ノ最モ遺憾トシテ居ルトコロデアリマスケレドモ、前年度ニ行ハレマシタル行政整理ノ結果ハ、經濟上自然ノ發達ト相俟チマシテ、國庫ノ資力ガ爲メニ増加セラレテ居ルデアリマスカラ、大正二年度ヨリ本年度ニ繰越スベキ純剩餘金額ハ約一億三千萬圓バカリアラウト思ハレマス、又本年度ニ於テモ亦實行豫算ヲ執行シテ行キマスル上ニ於テ、剩餘ヲ生ズル額ガ少ナクアリマセヌ、軍費支辨上ニ是ガ爲メニ多大ノ便宜ヲ得マシタコトハ、諸君ト共ニ深ク喜ブトコロデアリマス、戰時ニ於ケル財政ノ運用經濟ノ調節ハ、最モ至難ノ業ニ屬シテ居リマスケレドモ、政府ハ努メテ用ヲ省キ費ヲ節シテ、國庫ノ充實ヲ圖リ、以テ軍費ノ支障ナカラシメンコトヲ期スル考デアリマス、又民間ノ經濟ニ關シテモ、出來得ル限リ戰時ノ壓迫ヲ除キマシテ、内外ニ於ケル金融ノ疏通ヲ圖リ、貿易ノ困難ヲ救済スルコトニ努力スル考デアリマシテ、私ハ諸君ト協力シテ此難局ノ處理ヲ誤ラザランコトヲ期スルモノデアリマス、諸君本大臣ハ諸君ガ慎重審議、速ニ豫算案ニ協賛ヲ御與ヘニナランコトヲ切ニ希望致シマス

超ヘテ九月九日(會期終了ノ日)加藤外務大臣ハ英、佛、露、三國間ニ結ハレタル講和條件ニ關スル

協約ニ付左ノ報告ヲ爲セリ

三十

諸君、外交上ノコトニ關シテ諸君ニ御報告ヲ申上ゲタイト思フコトガゴイマスカラ、簡單ニ御話ヲ致シマス、諸君ガ新聞紙上デ英、佛、露三國間ニ近日戰爭ヲ終了スル時ニ當ッテ、講和ヲナスコト、並ニ講和條件ニ關シテ協約ガ出來タト云フコトヲ御承知ニナッタ筈ト思ヒマスガ、ソレハ事實デアリマシテ、英、佛、露、三國ノ間ニ結バレマシタル協約ノ主旨ヲ、唯今申上ゲマス、協約文ハ次ノ如クデアリマス

下名ハ各其ノ本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ茲ニ左ノ通宣言ス

英國佛國及露國政府ハ現戰爭中ハ單獨ニ講和セサル可キコトヲ相互ニ約ス右三國政府ハ講和條件ヲ議スル場合ニ於テ孰レノ同盟國モ豫メ他ノ各同盟國ノ同意ヲ經スシテ講和條件ヲ要求セザル可キコトヲ約ス

右證據トシテ下名ハ本宣言ニ記名調印ス

千九百拾四年九月五日倫敦ニ於テ本書三通ヲ作ル

此ニ英ノ外務大臣ト、駐英ノ佛國大使、駐英露國大使三名ノ名前ガアリマス、英國外務大臣ハ右ノ趣ヲ在英ノ我ガ特命大使ニ通告ニナリマシタ、ソレト同時ニ井上大使ニ對シテ左ノ如キ覺書ヲ渡サレマシタ

英國政府ニ佛露兩國政府トノ間ニハ從來何等ノ取極ナカリシニヨリ今次共同ニ從事スル戰爭ニ關シ右二國政府ト協約ヲ締結シタリ日英兩國政府間ニハ同盟協約第二條ノ規定ニアルカ故ニ今更メテ斯ノ如キ協約ヲナスノ必要ナシ英國政府ハ講和締結及講和條件ニ關シ佛露兩國政府ト取結ヒタル協約ハ英國政府カ既ニ負擔スル義務タル日英同盟協約ノ規定ヲ毫モ變更スルモノト看做スヘカラサルコト並英國政府カ戰鬪及講和ニ關シ日本ト協同シ且雙方合意ノ上ニ於テ之ヲナスハ言フ俟タサルモノナルコトヲ佛露兩國政府ニ通告シタリ
此段報告致シマス

第二節 議案

本會期中本院ニ提出セラレタル議案ハ總テ七件ニシテ内豫算案二件ハ全會一致ヲ以テ兩院ヲ通過シ上奏案一件ハ可決、政府提出法律案三件ハ孰レモ兩院ヲ通過シ議員提出建議案一件ハ之ヲ可決セリ

又議院法第六十二條ニ依リ本院ノ受理シタル請願書ハ七通ニシテ内議院法第六十四條第二項ニ依リ特別報告ヲ爲シタル請願四通ノ内三通ハ本院ノ採擇スル所ト爲リ一通ハ同種建議案議決ノ結果院議ニ付スルヲ要セサルモノト爲レリ其ノ他二通ハ委員會ニ於テ政府ニ參考トシテ送付スヘキモノト議決シ審査未了ノモノ一通トス(議案ノ討議及表決ハ第三節第一款乃至第五款參看)

第三節 議案ノ討議及表決

第一款 豫算案

豫算

一 大正三年度歳入歳出總豫算追加案

大正三年度歳入歳出追加額ヲ各五千參百萬圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

歳入臨時部

第十款 前年度繰入金 金五千參百萬圓

第一項 前年度繰入金 金五千參百萬圓

歳出臨時部

大藏省所管

第二十二款 臨時軍事費特別會計繰入 金五千百萬圓

第一項 臨時軍事費特別會計繰入 金五千百萬圓

第二十三款 大正三年臨時事件豫備費 金貳百萬圓

第一項 大正三年臨時事件豫備費 金貳百萬圓

大藏省所管合計金五千參百萬圓

二 臨時軍事費豫算案

臨時軍事費豫算

臨時軍事費ノ歳入歳出ヲ各五千百萬圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ルヘシ

歳入

第一款 軍資 金五千百萬圓

第一項 一般會計繰入金 金五千百萬圓

歳出

第一款 臨時軍事費 金五千百萬圓

第一項 臨時軍事費 金五千百萬圓

右兩案ハ大正三年九月四日孰レモ政府ヨリ緊急事件トシテ提出セラレ九月五日一括シテ之ヲ院議ニ付ス大隈内閣總理大臣及若槻大藏大臣ハ會議ノ始ニ於テ兩案ニ關シ演說ヲ爲シタリ(第六章第一節參看)

議長ハ政府ヨリ緊急決議ノ要求アリタルヲ以テ議事日程ニ掲載シタルモ即決ノ動議出テサル以上豫算委員ノ審査ニ付スヘキ旨ヲ告ケ院議異議ナク豫算委員ニ付託スルニ決シタリ

是ヨリ先キ豫算委員ハ大正三年九月三日院議ヲ以テ前議會ノ委員ヲ其ノ儘本會期ニ於テ選舉シタルモノト認メ尙委員長及理事モ九月五日委員會ノ決議ヲ以テ前議會ノ通選舉シタルモノト認メタリ委員ハ審査ノ末同月七日全會一致ヲ以テ兩案ヲ可決シ報告書ヲ議長ニ提出セリ
 即日松田源治君ノ動議ニ依リ議事日程ヲ變更シ兩案ヲ一括シテ院議ニ付シ委員長井上角五郎君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

豫算委員會ノ經過並結果ヲ報告致シマス、大正三年度歳入歳出總豫算追加並ニ臨時軍事費豫算ハ關聯シタル問題デアツテ、關聯シテ報告スルヲ便利ト心得マスカラ、同時ニ茲ニ報告ヲ致シマス、委員會ハ最初ニ委員長理事ヲ互選シ、其當日ノ午後ニ開會ヲシ、翌日ハ終日開キマシテ、尙ホ本日モ午前ニ開會ヲシテ質問ト討議ヲ終リマシテゴザイマス、外交、軍事、財政ニ互ツテ各委員ヨリ叮嚀ニ質問セラレマシタケレドモ、其答辯就中外交ノ方針ハ、即チ言ヒ換ヘレバ如何ニシテ終ニ開戦スルニ至リシカ、今後ノ目的ハ如何デアラウカト云フ、是等ノ答辯ハ委員中多ク満足セザル者アリト認メタルコトヲ申上ゲルノハ、已ヲ得ナイコト、私ハ思ヒマス豫算ニ關シマシテハ委員中ヨリ第一驅逐艦製造費ノコトニ關シ、第二軍事費端數切上ゲノコトニ關シ、多ク質問ガゴザイマシタ、又此二點ニ關シテハ、討議モゴザイマシタカラ、此二點ノ大要ヲ申上ゲテ置キマス、臨時軍事費、海軍一時費二千八百九萬二千七百三十九圓ノ中ニ驅逐艦製造費トシテ一千五百七萬八千九百十圓ガ計上シテアリマス、是ハ所謂海軍補充計畫ノ一部デアツテ、本年第三十一回議會ニ政府ガ提出ラシテ成立セザリシモノ、海軍當局ニシテ眞ニ必要ナリトスレバ即チ第三十三回議會ニ提出スベキ筈デアツタモノデ、否ラザレバ寧ロ次期議會ヲ待ツテ提出スル積リノモノデアツタノデアリマス、ソレガ今回ノ戰爭デ特ニ必要ナリト感シタノデハゴザイマセウケレドモ、本年十二月末日マデノ軍事費豫算ノ中ニ、其後三四箇月カカテ始メテ成功ヲ告グルモノヲ計上

シタノハ、決シテ豫算ノ形式ガ完備シタモノトハ言ハレナイ、言ハレナイ筈デアルト云フトコロノ質問ガゴザイマシタ、モウ一ハ、臨時軍事費ノ端數切上ゲデアツテ、即チ陸海兩軍ガ一時費維持費トシテ、今回ノ戰爭ニ要スルトコロノモノトシテ示シタル内譯ハ、五千二萬九千八百八十九圓デアアルノニ、之ヲ切上ゲテ五千百萬圓トシテ、即チ九十七萬百一十一圓ダケヲ切上ゲテ計算シタノハ、所謂四捨五入ト云フコトガゴザイマスケレドモ、餘リニ思ヒ切ツタ切上ゲヤウデハナイカト云フガ第二ノ議論デゴザイマス、斯様ニ種々ノ質問ガゴザイマシテ、終ニ討議ニ入ツタ時ニ、犬養君、島田君、大岡君、早速君ヨリソレソレノ原案賛成ノ演說ガゴザイマシタ、此演說中ニ政府ノ既往ノ所爲ハ暫ク置キ、帝國未來永久ノ地歩ヲ占メル勳ヲスベシ、換言セバ有力ナル發言均等ナル利益ヲ得ルト云フコトヲ忘レテハナラヌト云フ注意ガ、其討議ノ議論中ニ見エマシタ、又一ニハ豫算不完全デアアル、即チ驅逐艦製造費ヲ計上シタノガ其一デアアル、臨時軍事費ノ内譯ニ多額ノ切上ゲヲシタノハ其ニデアアルケレドモ今ハ、聖旨ヲ奉戴シテ和協一致ノ實ヲ擧ゲルガタメニ、總テ賛成ヲスルト云フ議論デゴザイマス、本員ハ以上ノ經過ヲ述ベ來ツテ、實ニ我國民ノ至誠何レノ點ニマデ至ッテ居ルカト云フコトヲ考ヘテ喜バシク嬉シク實ニ是ハ國家ノ爲メニ賀スル次第デアアルノデアリマス、平常黨派ハ主義ヲ異ニスルニ拘ラズ、豫算ハ斯ク完備ナラザルニモ拘ラズ、殊ニ當局ノ處置ニ多少ノ異論異議ヲ懷イテ居ルニモ拘ラズ、上ハ、聖旨ニ對シ奉リ且ハ出征軍人ノ忠勇事ニ當リ、至誠國ニ報ズルヲ思ウテ滿場一致ノ可決ヲ見タト云フコトハ、實ニ國家ノタメニ賀スベク喜ブベキコトデアリマシテ、私ハ茲ニ之ヲ報告スルノ光榮ヲ有スルヲ以テ、實ニ無上ノ面目トスル所ノモノデゴザイマス、諸君、最後ニ尙一ノ報告スベキコトガゴザイマス、昨日午前大隈總理大臣ハ澤來太郎君ノ質問ニ對シテ演說ヲセラレマシタ、其演說ノ大要ヲ此ニ申上ゲタイト思ヒマスガ、自然言葉ノ行違ヲ生ズル恐モアリマスカラ、速記録ヲ讀ム積デゴザイマス、速記録ハ長ウゴザイマスカラ中間ヲ省キマスカラ左様御承知ヲ願ヒマス、即チ大隈總理大臣ノ御演說ノ一部デゴザイマス、「昨日來豫算ノ款項ニ付テ質問ガ少シハアツテ陸海軍大臣カラ說明ヲサレタガ、案外豫算ノ項目ニ付テノ質問ガ少ナイノヲ私ハ遺憾トシテ居ッタ、私ハ聲ガ大

キクシテ事柄ヲ能ク理解セヌ、何等是ニ對シテ具體的ハ御答スルコトハモウ澤山デアルト思フ、ソレ以上蛇足ヲ添ヘル必要ナシト思フノデアアル然ルニ此中聽キ棄テニナラヌコトガアル、元老問題デアッテ、今尙存在シテ、或ル期間ニハ中間ニ加ハルコトガアル、何等直接ノ責任ハナイ、直接ノ責任ハ國務大臣デアアル、其責任其モノハ大ナル權力デアアルニ我ノ自信力ヲ以テ——權力ヲ行フ際ニハ自ら信ズル所ヲ行フノデアアル「斯様ニ大隈伯ハ述ベ來ラレタ時ニハ態度ヲ一變セラレテカラニ、議場ニ向ッテ手ヲ差伸ベテ自ら信ズル所ヲ行フノデアアルト云ウテ」決シテ舉國一致ヲ強ヒヌノデアアル是ニ同意ナラ一致シテ同意セヨ、反對ナラ何時デモ反對セヨ是ガ國ニ對スル自己ノ意見デアアル「斯様ニ演說セラレテゴザイマス是ニ對シマシテハ中村君、小久保君ヨリソレ」發言セラレマシタ、其小久保君ノ發言ハ尙御參考ノタメニ茲ニ申上ゲテ置キマス「私ハ甚ダ其當ヲ得ナイ御言葉ト考ヘル、敢テ之ヲ責メルノデアアリマセヌガ、今期議會ニ降サレマシタル詔勅ノ一句ヲ此處デ讀ミマシテ、大隈伯ノ參考ニ供サウト思フ

朕ハ帝國臣民カ義勇克ク公ニ報シ一致和協速ニ交戦ノ目的ヲ達シ以テ國光ヲ宣揚セムコトヲ期ス

ト云フ御言葉ガゴザイマス、此先キハ私ハ申シマセヌガ、兎ニ角能ク之ヲ耳ニ入レタイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス」是ガ小久保君ノ演說デゴザイマス、此小久保君ノ演說ハ蓋シ豫算委員中ノ多數ハ同一ノ觀念ヲ懷イタモノト思フノデアアッテ、總理大臣ノ果シテ上 聖旨ヲ奉體シ下國民ヲ率非テ國難ニ赴クノ誠意アルヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ナカッタノデアアリマス 此ニ於テカ本案賛成ノ決議ニ際シマシテ警告ガ出マシテゴザイマス、其警告ノ趣意ハ、國民ハ 聖旨ヲ奉體シテ居リマス、誰カ是ニ反對スル者アルベキ、然ルニ大隈首相ニシテ斯ノ如ク反對ナラバ反對セヨト言ハル、實ニ大局ニ當ラレル所ノ其人ノ言葉トハ覺エマセヌ、政府ノ態度如何ナルニ拘ラズ、吾吾ハ 聖旨ヲ奉體シテ本案ヲ賛成シマス、政府トシテ更ニ吾々ヨリモ努ムベキ筈ナルニ、首相ノ態度ノ實ニ斯ノ如キハ、吾々トシテ寒心ニ堪ヘザル次第デアリマス 速ニ反省セラレンコトヲ望ムト云フノ警告ガ出マシテゴザイマス、此警告ヲ聽イテ滿場ハ一人ノ反對ナク、總テ起立ラシテ

之ニ賛成ヲ表シマシタ 本案ニ賛成ラシマシタ、私ハ終リニ於キマシテ此警告ニ賛成シタイ云フノデアナイ、能ク御聽キナサイ、此様ナル警告ノ出タル末、本案ハ滿場一致ヲ以テ可決ラシマシタ私ハ本案ハ滿場一致ヲ以テ可決ヲ見マシタト云フコトニ對シマシテハ、再ビ茲ニ實ニ光榮ヲ感ズル次第デゴザイマス、是ダケノコトヲ以テ報告ニ代ヘマス

福田又一君、林毅陸君ハ質疑ヲ爲シ井上角五郎君之ニ應答ス中村啓次郎君ハ自己ノ行動ニ關シ辯明セムトシ松田源治君ハ通告順ニ依テ議事ヲ進行スヘシト述ヘ若槻大藏大臣ハ委員長ノ報告ニ對シ左ノ辯明ヲ爲セリ

唯今委員長ノ報告ノ中ニ、此度政府ノ要求致シマシタ軍事費ノ五千百萬圓ト云フノハ、積算額ハ其以下デアアルノガ切上デアアルト云フコトニ付テ、委員會デ御議論ノアッタヤウナ御報告デアリマシタ、若シ此點ガ委員會デ御質問ガアリマスレバ、十分其席上ニ於テ説明ヲ致シマシタノデアリマスガ、何等御質問ガ無カリマシタ故ニ私ハ申上ゲナカッタデアリマスガ、此場合ニ一言致シテ置ク必要ガアルト思ヒマス、如何ニモ五千百萬圓ト言ヒマスノハ、其内譯ノ金額ヲ御目ニ懸ケマシタ數ヲ積算スレバ五千萬圓餘ニナツテ居ルノハ、切上ゲテ五千百萬圓トシタニハ相違アリマセヌガ、凡ソ戰爭ノ費用ノ如キモノハ、豫算ヲ立テレバ豫算ヲ立テナケレバナラヌケレドモ、其豫算タルヤ餘程ムヅカシイモノデアアル、ソレデ小サナ數ヲ切上ゲテ大數ニ於テ御協賛ヲ求メルト云フコトハ、是ハ前例モアルノデアリマス、明治三十七八年ノ場合ニ於テハ——宜シウゴザイマス、唯今申上ゲマシテ後伺ヒマセウ——三十七八年戰役ノトキノ豫算ニ於テハ積算額ノ三億六千七百五十九萬二千八百五圓ト云フ數ガ、三億八千萬圓ニ切上ゲテ御協賛ヲ受ケテアルノデアリマス、必ズシモ前例ニ依ルト云フソデハアリマセヌガ、戰爭ノ費用ニ於テ小數ヲ切上ゲタト云フコトハ前例モアル次第デアリマシテ、此點ガ委員長ノ報告ニナリマシタ切上ゲト云フ點ニ當リマスノデ、切上ゲノ如何ナルモノナリヤト云フコトヲ明カニスルタメニ、是ダケヲ一言

次テ大岡育造君、早速整爾君、犬養毅君及島田三郎君ハ各々兩案賛成ノ演説ヲ爲シ八代海軍大臣ハ大岡育造君ニ對シ辯明ヲ爲セリ

大岡育造君ノ演説

諸君、私ハ唯今豫算委員長ヨリ報告ニナリマシタ今回ノ軍事費全部ニ對シテ、賛成ノ意ヲ表明スル爲メニ茲ニ立チマシタ次第デアリマス、委員長ヨリ報告モアリマシタケレドモ、多少齟齬粗密ノ點モアリマス、又大藏大臣ヨリ辯明セラレタル點モアリマス、ソレヲノ事ニ就テモウ多ク言フ必要ハナイト思ヒマスケレドモ茲ニ議論ニ上リマシタ以上ハ、一言セザルコトヲ得ヌノデアリマス、豫算ノ編成上ニ關シテ海軍ノ驅逐艇ノ建造ニ關スル要求ニハ、要求ノ方法ニ議論ハアルノデアリマスケレドモ、全部之ニ應ズルト云フコトニ決シマシタカラ、之ヲ擧ゲテ言フノ必要ハナイガ、唯今大藏大臣ガ言ハレタ點ノ如キハ、辯明ガ無ケレバ言ハズトモ宜イガ、二萬何千圓ト云フ數ヲ百萬圓ニ勘定シテアルコトデアアル、戰時ノ費用デアッテ是マデニモサウ云フ例ハアル、問ハレタナラバ言フモノヲ、問ハナカッタト云フコトデスケレドモ、キチント實ハ五千萬圓ニ切ルベキ所ヲ二萬何千圓ト云フ端數ガ出タノダカラ、是ハ切棄テタト云フナラバ誰レニモ了解ノ付クコトデアアルガ、茲ニ五千萬圓ノ數字ニ二萬何千圓カ出タカラ五千万圓ト計上シタト云フコトハ、是ハ大藏大臣モ問ハズトモ説明セラルベキ要點デアアルノデアアル、マア靜カニ御聽キナサイ、表ガ提出セラレテアルカラ、問フマデモナイ此數ハ斯ウ云フモノデアアルト云フコトハ分ッテ居ルガ、既ニ軍人ガ出征シテ戰鬪ニ從事シテ居ル今日デアアルカラ、之ヲ切下ゲルト云フヤウナコトハ吾々ニハ直チニ分ル、内地ニ居ル人ニハ分リマスケレドモ出征ノ軍人ニハ分ラヌ、後援ノ上ニ疑ヲ持ッテハナラヌカラ是モ全部賛成ヲ表スル、斯ウ云フ吾々ハ意味デアリマス、強テ深ク答メタノデハナイ、斯ウ云フ成立チデアアル、異論ヲ言ヘバ言フベキ筋モアルケレドモ、此場合ナ

ルガ故ニ吾々ハ全部賛成スルト云フコトヲ申シタノデアアルカラ、是レダケニ就テ大體大シタ議論ノアルベキ筈ハナイノデアアル、今一箇條報告ニ上ッタ點デ、少シク私カラ修正シナケレバナラヌト思フ點ガアル、委員長不信任ト云フ意味デハナイガ、委員長ハ叮嚀ニスル爲デアアラウケレドモ、私ガ總理大臣ニ警告ヲ申シタ次第ヲ、何カ筆記ニシテ讀マレタ、其讀マレタガ爲ニ私ノ其時ノ演説ノ筆記ヲ讀マレタルガ如ク聞ヘタガ、アレハ井上君ノ書イタノデアッテ、私ノ演説ノソレデナイト云フコトヲ茲ニ言明致シテ置キマス、是ニ於テ、嘘ノ報告デハナイガ問題ガアルノデ茲ニ言フノデアリマス、ドウゾ諸君ハ今少シ事ヲ慎重ニ御聽取リニナル方ガ宜カラウト私ハ思フノデアリマス、其點ハ全ク實ハ大切ナ點デアッテ、先刻林毅陸君ヨリ特ニ 聖詔ノコトヲ引イテ云々スルノハ穩カナラヌト云フノ攻撃的ノ事モアッタノデアリマス、是ハ事ニ依ルト御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、宣戰構和ノ事ニ大權ニ在ルノデアリマス、戰爭ノ場合ニ於テ 大詔煥發セラレテ出征軍人出デタル以上ハ、一意専心謹デ之ニ從フノガ吾々國民ノ義務デアリ美德デアアルノデアアル、即チ舉國一致セヨト云フ御希望モ添フテ居ルコトデアアルカラ、吾々ハ謹デ豫算ニハ不服ノ箇條モアルケレドモ、大體ノ目的ヲ立派ニ貫徹スルコトヲ望ムノ故ヲ以テ之ヲ賛成スル、政府ハ殊ニ此大責任ヲ荷ウテ居ルモノデアアルカラシテ、一段ノ注意ヲ厚クシテ貫ハナケレバナラヌ、然ルニ昨日ノ委員會ニ於テハ端ナクモ一場ノ紛擾ヲ來シテ、首相ノ演説中ニ責任ノアル者ニハ大權力ガアル、舉國一致ヲ強ユルノデハナイ、賛成ナラバ賛成セヨ、反對ナラバ反對セヨ、斯ウ言ハレルダケ左程ノ罪ハナイガ如クデアリマスケレドモ、大詔既ニ一致ヲスベシトアル此戰局ニ對シテ、一致スルハ我國民ノ美德デアリマスカラ、政府トシテハ強イテモ努メテモ舉國一致ヲスルコトニ御運ビニナルニ熱心ナサルノガ、此大局ニ從事スル相當ノ御心得デアラネバナラヌモノヲ、何事ゾ勝手ニセヨト言ハレル如キ言語ハ甚ダ其當ヲ得ヌト云フコトヲ私ガ申シタノデアッテ、即チ政府ガ大ニ反省シテ努メラルルノガ、此大時局ノ重キヲ荷フ所以デアリマス大體唯今マデノ報告上ニ關スル事柄ハ是デアアル、又之ニ關シテハ政府ニ於テモ異論ノアル所デナイト私ハ信ズルノデアリマス扱テ今日吾々ハ既ニ戰端ヲ啓キマシタ、ソレ以上ニハ誠ニ忠

勇ナル我が海陸軍人が膠州灣ノ攻撃ニ從事シテ、要塞線ノタメニ所謂肉彈トナッテ國家ニ犠牲ヲ供スル時デアアルノデアリマスカラ、思ヒ此ニ到レバ全ク諸君ト共ニ膽ヲ寒ウスル次第デアリマス、若シ之ガ初メテ要塞戰ニ出會フモノナラバ左程デモゴザイマセヌケレドモ、既ニ旅順ニ於テノ苦キ經驗ヲ致シマシタル吾々ハ、出征ノ生靈ハ石ト戰ヒ鐵ト戰ウテ、此目的ニ從事スルノデアリマスカラ、吾々モ亦其心シナケレバナリマセヌガ故ニ、不足ノ箇條ガ政府ノ仕方ニアルニセヨ、此目的ノタメニハ謹ンデ大事ヲ遂行シナケレバナラヌト云フノガ、私ノ唱ヘル所デアリ信ズル所デアリ、我が同志ノ殊ニ重ンズル所デアアルノデアリマス、故ニ政府諸公モ亦一片ノ肉彈ヲ要塞ニ捧ゲルノ心ヲ以テ此軍事ニ當ラレマシタナラバ、冀クハ上下一致ノ實ガ舉ルコトデアラウト信ズルノデアリマス、然ラズシテ乃公ノ責任モアリ、大ナル權力モアル、贊成スルナラ贊成セヨ、嫌ナラ反對セヨト云フガ如キハ甚ダ其當ヲ得ザルモノニ違ヒナイデアアリマセヌカ、況ヤ權力——大ナル權力ガアルニ依ッテ、議會ノ多數ガ反對スルト贊成スルトハ敢テ構ハヌト云フガ如キニ至ルナラバ、立憲政治ノ妙ハ何處ニ在ルノデアアリマセウカ、憲政ノ妙ハ何處ニ在ルデアリマセウカ、諸君、即チ是ガ昨日ノ紛擾ヲ來シタ次第デアルト思ヒマス、ケレドモ是トテモ亦強イテ之ヲ問題ニスルト云フノデアリナイノデ、唯政府ガ事ニ當ルニ斯ノ如キ熱心ヲ持タレ、吾々モ亦持ツト云フ互ニ胸襟ヲ其所ニ披クヤウニナレバ、初メテ此大事ハ行ハレルデアアリマセウト私共ハ思フノデアリマス、ソレデ今戰局ノ想像ヲ致シ、之ヲ身ニ引受ケテ考ヘマヌレバ、何モ實ハ能ク解釋ガ出來ルコトデアリマス、外交モ此事ヲ外務大臣ガ切ニ身ニ問ハレテ、而シテ國利ヲ第一トスルコトニ致シテ貫ヒタイ、與國ヲ第一トシ、我が國利民福ヲ第二ニスルガ如キ疑ノナイヤウニシテ貫ヒタイト思フノデアリマス、海軍ノ當局ニ對シマシテモ、私ハ豫算會議デ稍、急激ナル警告ヲ致シタコトガアリマス、今ノ海軍大臣ハ會テ日露戰役ニ當ッテ、目下敵前ニ雷聲ヲ弄シテ頗ル雅量アル風流ノ將軍タルコトヲ私ハ聞イテ居リマス、併ナガラ海軍ノ當局者トシテノ不用意ニ至テハ驚カザルヲ得ヌノデアリマス、海軍ノコト陸軍ノコト、云フモノハ、總テ萬一ノ場合ニ期スルモノデアアル、故ニ特ニ臨時ノ議會ヲ開イテ、今年モ海軍ノ爲ニアノ一圖ガ終始サ

レタ譯デアアル、此戰時ノ費用ノ中ニ組込マナケレバナラヌ程必要ナル艦艇ノコトデアッタナラバ、即チ本年ノ臨時議會ニ提出セラルベキガ實ハ當然デアアルノデアアル、ソレガ二月ヤ三月デ出來ルモノデナイト云フコトモ、諸君ガ能ク知ッテ居ラレルノデアリマス、併ナガラ此期間ヲ非共ニ造リタイト云フ熱心カラデアアリマセウケレドモ、吾々ニ對シテ政府ガ要求シタル五千一百萬圓ノ軍事費ナルモノハ何ト書イテアリマス、戰時機密ノ漏洩ノ虞ガアルカラト云フコトヲ一箇條トシテ、何等内譯モ項目モ出サズシテ、一口ニ、五千一百萬圓ト書イテアルデアアリマセヌカ、然ルニ豫算トシテ提出スルニハ右ノ如キ調査ニ必要ナルダケノ項目ヲ豫メ備ヘルコトナシニ豫算ノ會場ニ於テ殆ド公ケノ仕方ニ於テ、我が海軍ノ動作、現在ノコトヲ語り、又海軍ノ實力ノ貧弱ナル有様ヲ言フニ至ッテハ餘リニ不用意不謹慎ノヤリ口デアルト私ハ思フノデアアル、若シ初ヨリ海軍ニ機密ガナイト云フコトデアラバ、ナゼ豫算ノ項目ヲ備ヘテ出サレナイノデアリマスカ、是レ實ニ私ハ不用意デアルト云フコトヲ思フ、唯今ノ不用意ヲ答メタトコロガ何ニナルカト私ニ於テモ一遍ハ思フノデアリマスケレドモ、實ハ上海ニマダ獨逸人ガ無線電信ヲ持ッテ居ルデアアリマセヌカ、之ヲ利用シテ居ルデアアリマセヌカ、又獨逸ノ艦隊ヲマダ撃沈メタト云フ譯デアリナイデアリマセヌカ、然ラバ機密ハ保ツベキモノデアラウト思フニ、根據地ガ何々ト云フガ如キハ、殆ド不用意ト云フコトヲ私ハ感ゼザルヲ得ヌノデアリマス、能ク御聽キナサイ、唯此現狀ヲ御話ニナリ軍略ヲ御話ニナルト云フコトヲ私ガ答メルト云フ意味デアリナイノデアリマス、今此處ニ要求セラレタル合セテ五千三百萬圓ナルモノ及ビ緊急支出ヲ合セレバ六千百萬圓ナルモノハ何ノ費用デアルカ、何時迄ノ費用デアルカト云ヘバ、是ハ將ニ十二月迄ノ費用ニ過ギナイノデアリマス、戰爭ハマダ此上ニモ長引クニ相違ナイノデアリマスカラ、餘リニ芝居ガ筋書ヲ知ラセテ見物ニ見セルヤウナ戰爭ノ仕方ヲスルト云フコトニナレバ、敵ノ用意ハ十二分ニ出來マスタメニ、長引キ長引イテ人モ多ク損スレバ金モ多ク損ゼネバナラヌガ故ニ、此事ヲ私ガ今言フノデアリマス、ソレデ又政府ニ對シマシテハ實ハ斯ウ云フコトヲ私共思フノデアリマス、今度ノ戰爭ニ對シマシテハ隨分海陸軍共ニ傷ムルコトモアラウト思ヒマスケレドモ、

實ハ此近年不景氣ニ次グニ不景氣ヲ以テシテ、而シテ現ニ此戰時ノ爲メニ民間經濟界ノ苦ムコトハ想像ニ餘リアル次第デアリマスカラ、大藏大臣、農商務大臣ハ申スニ及バズ、總理大臣首メガ丁度海陸軍ニ於テ始末ヲ敏速ニセネバナラヌト同様ナ態度ト用意ヲ以テ、商工業ニ向ッテノ助ケモ一ツ奮發シナケレバナラヌ等ト私ハ思フノデアリマス、勿論今度二三ノ政府ヨリモ案件ガ出テ居リマスガ、其中デ海上保險ノ如キハ最モ大切ナルモノト私ハ思フノデアリマス、思フノデアリマスガ、是ハ何時最モ大切デアッタカト云フト、開戰當時ガ最モ必要デアッタ、日ガ經ツニ從ッテ不用ニ歸スルノデアリマス、政府ニ於カレテモ此ニ氣付カレタモノト見エテ、新聞ノ傳フル所ガ事實ノヤウニ思フガ、樞密院マデハ提出サレタト云フコトデアッタガ、ソレナリニナッテシマッタ……詰リ斯ウ云フ問題ハ最モ緊急ヲ要スル問題デアルガ故ニ、ヤハリ陸軍ガ緊急支出ヲ爲シ、責任支出ヲ爲スガ如キ方法ノ緊急勅令ヲ以テモ、此急ヲ救フコトヲ御努メニナルノガ當然デアリマス、是ガ日ヲ後レテ此ニ法律ガ出ヅルト云フト實際ニハ役ニ立タヌ問題外デハナイ、現ニ日本ノ生絲、羽二重ハ何所ノ船舶デ送ッタデアリマスカ、何國ノ船ニ積ンダト思召スカ、今日ノ海上ハ平安ナリ海軍デハ報告ヲ致シマス、安全ナリト報告シマスケレドモ、亞米利加ト日本トノ間ノ交通ニ關シテ、荷物ハ日本ノ船ニハ積ムコトナクシテ亞米利加ノ船ニ積ムノデアリマス、斯ノ如キ國民ノ商工業ヲ助ケルト云フコトニ最モ力ヲ御盡シニナリ……其方ニ向ッテ我々ハ大ナル望ヲ持チマスカラ、此方ニ就テ實ハ緊急勅令ヲ斷行シタラ宜カッタラウト私共ハ思フノデアリマス、尙ホ大藏ノ當局、陸軍ノ當局、殊ニ海軍ニ望ミマスガ、此軍事費ノ使用ニ關シテハ餘リ深クモ問ハズ言ヒモセズシテ是ハ宜シイノデアリマスガ、之ヲ使用スルニ方ッテハ力メテ内地ノ品物ヲ買入ルト云フコトニ、盡力注意ヲシテ貰ヒタイト思フノデアリマス、傳フル所ニ依レバ敵ノ糧ニ依ルトカ云フヤウナ標題ヲ以ッテ、米麥ノ如キ之ヲ支那ニ求ムルト云フ説ガアリマスケレドモ、是ハ大ナル誤デアアルノデアリマス、是ハ必ズ内地ヨリ買上ゲルト云フコトニシナケレバナラヌ、是ハ日露戰役ノ時ニハ一繩一本買フニモ、各地方ニ割當テ、我内地ヨリ買入レルトコトニ力メタ例モアルカラ、御意リハ無イデアラウト思フノデアリマスガ、會、以ッテ廉イカラ

便利デアアルカラト云フヤウナコトデ、外ニ求メラル、コトノ無イヤウニ希望ヲ添ヘテ置クノデアリマス、其他金融機關ノコトニ付キマシテモ、出來ルダケ一ツ此際ニ奮發スルコト、尙ホ海陸軍事ナラ譯モナク千萬圓モ二千萬圓モ摘ミ出ス形ガアルガ、サウ使ハレテハ困ルケレドモ軍事ヲ視ルガ如ク商工業ヲ視テ、大ニ此際努ムベキ點ヲ御努メラ願ヒタイト思フノデアリマス、之ヲ要スルニ我々ハ此豫算ニ關シテハ全部擧ゲテ之ヲ贊成スル、偏ニ今回ノ開戰ノ目的ヲ達シテ、而シテ國家ノ利益人民ノ康福ヲ増進スルコトニ於テ、違算ナカラント切望シテ已マヌ次第デアリマス

八代海軍大臣ノ辯明

唯今大岡君ガ、海軍大臣ハ軍事ノ祕密ヲ公開ノ席ニ於テ洩シタト云フヤウナ御言葉ガアリマシタ、此事ニ付テ誤解ヲ防グ爲メニ辯明致シテ置キマス、本大臣ガ申シマシタノハ、艦隊ノ編成、艦隊ヲ組織スル軍艦ノ名ト其運動ノ區域、運動ノ時日、艦船ノ進退等ヲ申シタコトハゴザイマセヌ、本大臣ノ申シマシタノハ日本ノ海軍ノ力ガズット海上ニ擴ツタ所ノ有様ダケヲ申シマシタ、又味方ノ勢力ノ貧弱ナルコトヲ暴露シタト仰セラレル、是ハ驅逐艦ノコトデアラウト存ジマスガ、驅逐艦軍艦等ノ進水スルコトハチャント何時デモ公ケニ進水式ヲ明言致シマス、其進水ノ時期カラ勘定スレバ同年ニナルト云フコトハ明ニ分リマス、何ガ是カ祕密デアリマスカ、是ハ祕密デナイト云フコトヲ辯明致シテ置キマス

早速整爾君ノ演説

諸君、本員ハ唯今議題ニ相成ッテ居リマス豫算此兩案ニ付キマシテ、全部政府ノ案ニ同意スルモノデアリマス、時局ノ進展ハ今日ノ如クナルニ至リマシタル以上、此前途ニ期スル所ハ頗ル雄大デアラネバナラヌコト勿論デアリマスカラ、政府ガ此度要求致シマシタル臨時軍事費ノ如キハ、必要已ムベカラザル所タルノミナラズ、我國民ハ報國ノ義心ヨリ致シマシテモ、此要求ニ應

ブルコトヲ光榮ト致シテ居ルト私ハ信ジテ居リマス、別ニ多言ヲ費スノ必要ハゴザイマセズ、國家一タビ事アルニ方ッテ奮然蹶起スルノハ眞個ニ愛國ノ至情ニ基ク次第デアリマスカラ、吾々同志ハ進ンデ此臨時軍事費ノ豫算ニ協賛ヲ與ヘタイト思ッテ居ルノデアリマス、此豫算ノ中ニ就キマシテ、海軍ノ要求セラレタル一時費ノ中ニ驅逐艦ノ製造費ナルモノガ千五十七萬圓餘、此中ニ付キマシテハ豫算委員會等ニ於テ形式上多少ノ異論ガアリシコトヲ耳ニ致シテ居ルノデアリマスガ、吾々ハ今日ノ場合ニ於テ區々タル感情ハ總テ之ヲ排シタイト思ッテ居ルノデアリマス成程一應尤モラシキ點モゴザイマスルシ、本員ノ見ル所ニ依リマスレバ、豫算委員會ニ於ケル海軍大臣ノ言明モ、頗ル徹底ヲ缺イテ居ルト思フ、私ハ時局ノ前途ヲ思フニ於キマシテ、此驅逐艦ノ製造費ハ全ク臨時事件ニ重大ナル關係アリト確信致シテ居ル、時局ニ關係ヲ有セザル費用ノ如ク論ズルモノハ、動モスレバ時局ノ終局ガ數月ノ間ニアルデアラウト、是ハ固ヨリ見込デゴザイマスガ、併シ能ク時局ノ前途ヲ考ヘテ見マスレバ、此前途ニ於テハ眞ニ測リ知ルベカラザルモノガ存シテ居ルト私ハ思ッテ居ルノデアリマス、此故ニ驅逐艦ノ建造ト云フモノヲ早急ニシナケレバナラヌト云フコトハ、全ク時局ノ要求ニ基クモノデアッテ、是ガ時局ニ關係ナシト云フコトハ出來ナイノデアアル、時局ノ前途ヲ考ヘルトキハ全ク此驅逐艦製造費ノ如キモ臨時軍事費トシテ要求シタルコトハ、其當ヲ得タルモノト私ハ信ジテ疑ハヌノデアリマス、唯茲ニ私ハ特ニ一言致シテ内閣諸公ノ注意ヲ喚ビタイト思ッテ居ルノデアリマス、ソレハ此臨時軍事費ニ關スル特別會計ノ整理ニ付テデアリマス、臨時軍事費ヲ一般會計ヨリ引離シテ之ヲ特別會計ニ移スト云フコトハ固ヨリ已ムヲ得ナイ處置デゴザイマスケレドモ、由來臨時軍事費ニ伴フ——臨時軍事費ノ特別會計ニ伴フ弊害ガ頗ル多イト云フコトハ、既往ノ實例ニ於テ吾々ハ之ヲ認メテ居ル、明治二十七八年事件當時ノ臨時軍事費特別會計ニ於キマシテ、非常ナル弊害ヲ齎ラシタト云フコトハ、私此處ニ多辯スルマデモゴザイマスマイ、又明治三十七八年當時臨時軍事費特別會計ト云フモノハ、更ニ大ナル弊害ヲ持來シタト云フコトニ付テハ、我が大隈伯ノ如キモ夙ニ之ヲ御認メニナッテ居ルコト、信ジテ居ル、勿論是ハ過去ノ事實デゴザイマス、丁度臨時軍事費ノ特別會計ナ

ルモノハ軍務當局者ノ自由ヲ使用シ得ル特別資金ヲ設ケタルガ如キ形ヲ成シ、三十七八年戰役當時、並ニ戰役後ニ於キマシテ此特別會計ノ經費ノ支出ト云フモノガ、其宜シキヲ失シテ居ッタモノガ多々アッタト云フコトハ、私之ヲ否定スルコトハ出來ナイノデアアル、申サバ名ヲ臨時事件費ニ藉リテ、臨時ナラザル特別ナラザル一般的ノ若クハ經常的ノ不生産ノ消費ニ使ハレタト云フ事例モ多々アルノデアリマス、極言致シマスレバ、戰時財政ノ混雜マギレニ乘ジテ、議會ノ協賛ノ眼ヲ避ケテ此臨時軍事費ヲ攫取リニシタト云フ事例モ是アルコトヲ、私ハ否認スルコトハ出來ナイノデアリマス、三十七八年當時ノ臨時軍事費特別會計ハ、明治四十年ノ三月末日限り是ハ終結ヲ告ゲタ、同年十月ニ此特別會計ニ閉鎖セラレタト私ハ思ッテ居ルノデアリマス、併シ此特別會計ヲ閉鎖セラレタ後モ臨時軍事費ノ支出ノ殘ガアルト云フコトヲ名トシテ、四十一年度以降數年ニ互ッテ此臨時軍事費ナルモノヲ使ッタト云フ事實ハ、此處ニ御列席ノ御方モ御承知ノ通りデアアル、而シテ其當時二億萬圓餘ノ臨時軍事費ノ剩餘金ガアッタト云フコトモ、是ハ滿堂諸君ノ能ク御承知ノ通りデアリマス、殊更ニ此剩餘金ヲヤハリ臨時軍事費ノ殘餘トシテ、政府ガ會計ヲ別ニシテ所謂臨時ナラザル特別ナラザル不生産ノ消費ニ之ヲ使ッタト云フコトモ、總テ否定スルコトガ出來ナイノデアアル、丁度其當時臨時軍事費ノ剩餘金ヲ使フニ金ガ無イ、所謂未募集公債ト云フモノガ存シテ居ッタ、殊更ニ新タニ公債ヲ募集シテ此臨時軍事費ノ剩餘金ヲ使ッタト云フ、洵ニ驚クベキ奇觀ヲ呈シタト云フ事實ヲ認メザルヲ得ナイノデアリマス、兎角臨時軍事費ト云フ名ノ下ニ斯様ナル惡シキ弊害ガ往々ニシテ行ハレテ居ルノデアリマス、勿論私ハ前ニ申シマシタ如ク、是ハ過去ノコトデゴザイマスケレドモ、會計年度ハ一年毎ニ之ヲ終結スル譯デハナイ、時局ノ終局マデ繼續シナケレバナラヌト云フコトデアリマスカラ、議會ノ監督ノ眼ヲ偷ムコトモ出來ル、議會ノ協賛ヲ避ケテ所謂攫ミ取リヲスルト云フコトモ出來勝デアアル、臨時軍事費ノ弊ハ此處ニ至ッテ極マル、大隈伯爵ハ嘗テ三十七八年當時ノ臨時軍事費ノ剩餘金ノ處分ニ付テハ、非常ニ累ヲ我が財政ニ及ボシテ居ルト云フコトヲ說カレタコトヲ私ハ記憶シテ居リマス、此弊ヤ實ニ軍國多事ノ際ニ於テハ、官民共ニ之ヲ誠メナケレバナラヌ點デアルト私ハ考ヘテ居リ

マス、勿論今回ノ臨時軍時費ノ特別會計ハ、三十七八年當時ノ臨時軍時費ノ豫算ト同日ノ談デハゴザイマセヌ、併シ金額ノ多寡ハ固ヨリ問題ノ外ニアル、況ヤ今回ノ此時局ノ前途ハ頗ル測リ知ルベカラザルモノアルニ於キ、マシテ今回ノ臨時軍時費ノ收支ノ前途ト云フモノハ、十分ニ誠意ヲ以テ之ヲ處理シナケレバナラヌト云フコトハ、今日ニ於テ諸君ト共ニ一般ガ之ヲ認メテ居ル點デアラウト私ハ思ッテ居リマス、此點ニ付キマシテ私ハ内閣諸公ノ誠意ヲ望ム、現内閣諸公ガ誠意ヲ以テ此臨時軍時費ノ特別會計ノ整理ヲセラル、ナラバ、斷ジテ既往ノ弊害ニ陥ルコトハゴザイマスマイ、既往ノ惡弊ヲ襲フガ如キコトハゴザイマスマイ、唯誠意アル當局者ハ國民ノ望ニ背カナイ、一度此誠意ヲ失フ場合ニ於キマシテハ、即チ前年ノ如キ惡弊ヲ再ビスルト云フ結果ニ陥ルカモ知レナイ、本員等ハ今日ノ時局ニ當リマシテハ、臨時軍時費ノ要求ナドト云フモノハ進ンデ之ニ賛成ヲ表スルト同時ニ、臨時軍時費ノ會計ノ整理ヲ嚴重ニシテ、諸公ハ誠意ヲ以テ此臨時軍時費ノ支出ニ當ラレンコトヲ希望スル、現内閣ノ諸公ハ左様ナル誠意ヲ有シテ居ラルルト云フコトヲ私ハ信ジテ、是デ私ノ壇ヲ降リマス

犬養毅君ノ演説

私ハ極メテ簡單デ、本案ノ全部ニ對シテ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス、此度ノ事件タル實ニ不幸ナ事件デアアル、世界ノ大爭亂、世界人類ノ大不幸ノ間ニ立ッテ又重ネテ我國モ此不幸ヲ受クル一國トナツテ、兵ヲ執ッテ起ツト云フニ至リマシタノハ實ニ已ムヲ得ヌコト、考ヘルノデアリマス、デ斯ク戰鬪行為ニ出ヅルト云フマデノ間ノ經過、手續、緩急、總テ此手段等ニ付テハ幾多ノ變遷モアルデアラウ、幾多ノ屈折モアルデアラウ、此際ニ之ヲ研究スルト云フコトハ國家ノ爲ニ無論重大ナル問題デアアルガ、併ナガラソレ以上ノ重大ナルモノガ茲ニ浮イテ居ルノデアアル、ソレ以上ノ重大ナル問題ハ何デアアルカト云ヘバ、吾々ハ未來ノ問題デアアル、矢ハ既ニ絃ヲ離レテ居ル既ニ戰鬪行為ヲ執ツタ以上ハ、此爭亂ノ結果トシテ如何ナルモノガ出テ來ルカ、今日始メテ居ルトコロノ戰爭ハ極メテ小イノデアアル、膠州灣、無論日清戰役ノ比デハナイ、日露戰役ノ比デハ

ナイ、極メテ小イモノデアアル、併ナガラ其結果ハドウデアアルカ、今日ノ戰爭ノ終局是カラ生ズルトコロノ世界形勢列國形勢ノ變化ハ如何ニ及ブカ、隨ッテ此形勢ヨリ生ズルトコロノ帝國ノ地位ハ如何ニ成行クカ、如何ニ成行クデハナイ、如何ニ爲セバ宜シイカト云フ大問題ハ、決シテ日清日露、兩戰役ノ如キ微弱ナル極メテ小イ結果ノモノデハナイノデアアル、ソレ故ニ吾々ハ既往ヲ研究致スト云フコトハ重要デナイトハ申サヌ、併ナガラソレ以上ノ重大ナルモノガアル、デ此點ヨリシテ私ハ些細ナ修正モ加ヘズ、全部内閣ノ出サレタ案ニ賛成ヲ致ス者デアアル、無論此間ノ豫算ノ編成或ハ金額、ソナ事ハ一切問ハヌ積リデアアル、吾々ハ平素ニ於テ經費ノ節約ヲ唱ヘルノハ何デアアルカ、國家事アル時、國家ノ發展セントスル時ハ經費ヲ吝マヌモノデアアル、此上幾ラデモ出スノデアアル、ソレ故ニ經費ノ點ニ於テハ多クヲ論ジマセヌノデアリマス、此際ニ吾々ノ希望シテ居ル趣意ダケハ述ベテ置カネバナラヌ、吾々ハ當局者ト御同様ニ無論平和ヲ希望スル、公明正大デアアル、決シテ他國ノ爭亂ニ乘ジテ領土ノ擴張ヲナスト云フガ如キ野心ヲ持ッテ居ル者デハナイノデアリマス、デ此野心ヲ持ッテ居ナイト同時ニ、吾々ハ他國ヲシテモ現狀ヲ打破シ、東洋南洋ニ於ケルトコロノ均勢ヲ破壞サセルト云フコトハ望マヌノデアリマス、我帝國ハ東洋南洋ニ於ケル平和維持ノ大責任ヲ持ッテ居ル、此責任ヲ果スガタメニハ帝國ノ門戸ニ沿ウテ居ル地域ニ於テ、地圖ノ變化ヲ見ル、種々ナ變化ヲ得ルト云フノ間ニハ、吾々ハ少クトモ後來平和ヲ維持スルニ足ルダケ、日本帝國ノ大責任ヲ盡シ得ルニ足ルダケノ地步ハ占メナケレバナラヌ、此地歩ヲ占ムル云フトコトハ平和攪亂デハナイノデアリマス、是ハドウシテモ致サネバナラヌ、無論外務大臣ガ唱ヘラレル公明正大ナル所謂平和、無論御同意デアアル、平和ナルモノハ政治家ノ唱ヘル平和、宗教家宣教師ノ唱ヘル平和、無論同ジコトデアアル、併ナガラ宗教家ノ所謂平和、政治家ノ平和ハ如何ニ致スカト云フ手段ニ至ッテハ、宗教家ト政治家ハ自ラ多少ノ相違ノアルト云フコトハ研究スベキ餘地ガマダ存在シテ居ラウト考ヘル、是ハ茲ニ具體的ニハ宣明致シマセヌ、我ガ門戸——簡單ナル言葉ヲ以テ言ヘバ臥榻ノ側他人ノ鼾睡ヲ容サヌ我ガ門戸ニハ何人モ妨ハサセヌノデアリマス、此趣意ヲ御實行アリタイ、又隣テ近鄰ノ最モ親密ナル友邦ニ對スル關係デア

リマスルガ、定メテ此争亂ニ付テハ種々浮言流説、離間モ起ルデアリマセウ、無論是ハ事實ハ吾々ガ鄰邦ヲ扶植シ平和ヲ維持スルコト云フ誠意ガ分ルコトハ容易デアアルノデアリマス、併シ此際ニ殊ニ附加ヘテ願ヒタイノハ、凡ソ武力ヲ有セナイ防禦力ヲ持タヌト云フ國ニ臨ンデ、例ヘバ安政嘉永ノ際ニ横濱神奈川ニ有力ナル艦隊ヲ浮ベテ幕府ニ迫ル、斯様ナ形式ガ少シデモアッタナラバ、防禦ノ足リナイ國ヲ心服致サセ、親密ニシ、猜疑心ヲ拂ヒ、疑懼心ヲ攘ヒ、互ニ相親密ニナルト云フコトニハ許多ノ障礙ガ生ジテ來ルノデアアルソレ故ニ——今日有ルトハ私ハ申サヌ、今日最モ好イ機會デハナイカ、決シテ吾々ハ侵略的態度ハ毛頭執ラナイノデアリマス、此點ヲ深ク御注意ヲ私ハ願ヒタイト考ヘルノデアリマス、併ナガラ凡ソ鄰國ト親密ノ關係ヲ保ツト云フコトハ、唇齒輔車、同文同種ト云フ空文ノ辭令デハ結ビ付カナイノデアアル、密接ナル利害ノ實質ニ觸レテ相結合シナケレバ、此平和維持ガ出來ナイノデアリマス、ソレデ此關係ヲ親密ニスルト云フナラバ、生存上ノ最モ利害ノ密接ナ實質ニ觸レタ結付ガ出來ナケレバナラヌトスルナラバ、此事件以後ニ於カレテ外務大臣ノ餘程ノ考量ヲ爲サルベキ餘地ハ、充分茲ニ存シテ居ルデアラウト考ヘマス、要スルニ斯ク漠然願フテ置キマス、極ク短イ言葉デ言ヘバ、此戰後ハ列國ノ形勢ハ大變動ヲ加ヘルゾ、地圖ハ總テ變換サレルゾ、此際ニ帝國ガ東方南方ニ於テ平和ヲ永久ニ維持スルト云フ立脚點ヲ、何レニシタラ保テルカ、野心デハナイ、是ハドウシタラ盡セルカト云フコトハ少シ考ヘラレタナラバ、吾々ノ考トサウ相違ノアルベキ道理ハナイノデアリマス、此點ガ御一絡ニ往カレルナラバ如何ナル内閣デモ助ケル此點ガ一絡ニ往ケナケレバ舉國一致ドコロデハナイ、即座ニ反對シテモ宜シイ、大隈伯爵ノ仰セラレル反對ナラ反對デ宜シイト云フ言語ハ、辭令ノ上カラ言ッタナラバ、餘リ婉曲ノモノデナカッタカモ知レナイ、併ナガラ一點ノ修飾ナク、極ク露骨ニ申セバ私モ御同意デアアル、小イ問題デアアル、平素ノ豫算問題、法律問題ハ舉國一致デモ宜シイ、併ナガラ國家後來ノ盛衰ノ岐レル所デ、見ス／＼下手ナ事ヲサレルナラバ舉國一致ドコロデナイ、眞先キニ倒サナケレバナラヌノデアアル、ソレ故ニ小問題ナラ舉國一致モ致サウ、併ナガラ斯様ナ大

問題ニ對シテハ舉國一致ドコロデナイ惡ケレバサツサト倒ス、今日デモ倒スガ宜イ、斯ウ云フモノデアアルガ、併シ今日ノ内閣ヲ見ルニマダ／＼曾テ申ス如ク、吾々ノ希望ヲ容レラレ少シ働カシタナラバ、働クベキ餘地ハ存シテ居ル、餘地ノ存シテ居ルト云フ間ハ吾々ハ外ニアツテ之ヲ監視シ、而シテ愈々行ハレヌト云フナラバサツサト打倒スガ宜イ、打チ倒スノガ吾々ノ責任デアアルノデアリマス、此點ニ於テハ大隈伯爵同ジ議論デアアル、唯露骨ニ言フカ婉曲ニ言フカト云フダケデ舉國一致ドコロデナイ、此研究ガ一番大切デアアル、此點カラ今日政府ノ出サレタ豫算案ニハ全部賛成スル、マダ要スルナラバ金ヲ出シマス、何時デモ發展次第出スガ故ニ、平常節約ヲ唱ヘテ居ルノデアアルカラ、何時デモ入用ナラバ御求メ通り國民ハ喜んで出スト云フコトヲ附加ヘテ置キマス、終リニ臨ンデ此内閣並ニ陛下ノ陸軍海軍ガ此間ニ立ッテ幾多ノ辛苦ヲ致サレ功勞ヲ積マレルト云フコトニ對シテハ、此所ニ敬意ヲ表シマス

島田三郎君ノ演説

諸君、此議場ニ於テ段々ト各派領袖諸君ノ本案ニ對スルトコロノ演説モ承ツタ、其思想ノ徑路ヲ考ヘテ見マスルト、イロ／＼ニ別レマスケレドモ、要スルニ結論ハ一デアリマス、恰モ豫算委員會ニ於テ隨分激シキ所ノ質問ガ續出致シマシタ、併ナガラ其討論ニ入ルニ至リマシテハ各派ノ代表的演説ハ洵ニ簡單ニシテ全會一致ヲ以ッテ本案ヲ賛成シテ、内閣諸公ヲシテ其手腕ヲ揮ハシムルニ全部ノ後援ヲ爲スト云フ意氣ヲ示シタト云フコトハ洵ニ喜ブベキコトデアリマス、各派ヲ代表シテ組織セラレタル所ノ豫算委員會既ニ然リ、更ニ本議場ニ於ケルトコロノ説明モ亦其所論異ナリト雖モ、同ジク全部ヲ其儘賛成スルト云フコトニ一致スベキ形勢ヲ未ダ決議ニ至ラザル前ニ示シテ居ルノハ明白デアリマス、舉國一致ノ形勢ヲ此議場ニ示シテ、今ヤ海陸軍ノ勇士ガ戰場ニ臨ンデ危險ヲ冒シ艱難ヲ冒シテ働カレテ居ルトコロノ後援ノ意見ヲ此議場ニ示スト云フコトハ、洵ニ國家ノ爲ニ慶スベキコトデアルト思フノデアリマス、斯ク既ニ形勢定マル以上ハ別ニ説明ヲシ別ニ辯論ヲ費ス必要ハナイト思ヒマス、恰モ豫算委員會ニ於テ簡單ニ本案全部

賛成ヲスルト云フコトヲ申述ベタト同ジ態度ヲ執ルベキデアリマス、唯茲ニ僅ニ説明ヲ要スル
 トコロノモノガアル、平常ノ豫算委員長ノ報告ト其態ヲ異ニシテ、種々異例ナルトコロノ言葉ヲ
 弄セラレタト云フコトニ至ッテハ本員若シ遠キ所ノ人ヲシテ此議場ノ有様ヲ推察セシメタナラ
 バ、縦令結果ニ於テハ全會一致デアッテモ、心中ニハ幾分ノ不服ヲ懷イテ居ッタデアラウカト云フ
 疑ヲ懷カシメルト云コトハ、特ニ内外共ニ視テ居リマス、トコロノ軍國議會ニ於テ、尙一點缺クル
 所アリト本員ハ考ヘルノデアリマス、ソレ故ニ其實事ヲ及ブダケ明白ニスルト云フコトト、所謂
 一實ノ缺ケテアル所ヲ補フ議論デアラウカト本員ハ思フガ爲ニ、一ニソレヲ補ウテ私ハ論結ヲ
 致シタイト思フノデアリマス、申スマデモナク本員ハ我同僚ノ政治上ノ朋友ト共ニ、原案全部賛
 成デ、内閣諸公ヲシテ其責任ヲ重シ其手腕ヲ揮ハシメルコトヲ滿腹希望致スノデアリマスガ、
 併ナガラ豫算委員長ノ言葉ヲ平和ニ約メテ申シマスルト、尙解シ難キ所ノモノガアリ、尙服シ難
 キ所ノモノガアリマス、彼ノ大詔ノ煥發ニ對シテ全會一致ノ決議ニ至ッタト、斯様ナ意味ニ説明セ
 ラレタト云フコトハ極メテ惜ムベキコトデアルト私ハ思フノデアリマス、是ハ林君ガ既ニ之ニ向
 ヲテ——簡單ニ止メルコトガ出來ナイ、決シテ無用デナイ、唯今マデ述ベタ所ニ依ッテ斯ノ如キ批
 評ヲ下スベキ所ノ質問ガアルノデアリマス——豫算委員會ノ經過ヲ簡單ニ委員長ノ言ハレザル
 所ヲ補ウテ申シマス、二日繼續シタル所ノ質問者ノ多數ハ——最大多數ハ政友會ノ委員諸君
 デアッタノデアアル、僅ニ國民黨ノ委員ノ中デ高木君一人ガ質問ヲ政友會以外ニ於テセラレタ
 除イテハ、二日引續イタル所ノ熱烈ナル應酬質問ト云フモノハ、悉ク政友會ノ御方ノ口ヲ藉リテ
 出タモノデアアルノデアアル、之ニ對シテ内閣諸公ハ及ブダケ説明ノ勞ヲ執ラレタト云フコトハ、
 吾々雙方應酬ノ傍ニ聽イテ居ッテ左様ニ信ズルノデゴザイマス、過ギタルコトハ決シテ無用デナ
 イノデアリマス、豫算委員長ノ誤レル報告ヲ茲ニ訂正スル所ノ必要ガアルト本員ハ確信シテ居
 ルノデアリマス——修正スルノデアリマセヌ、誤レル事實ヲ此所ニ説明スルノデアリマス、誤
 レル事實ヲ指摘スルノデアリマス、政友會諸君ガ自分ノ短所ヲ擧ゲラレルノヲ喜バザル爲ニ、左
 様ニ囂々セラレルノデアアルナラバ、尙更之ヲ説明スルコトノ必要アリト思フノデアリマス、特

ニ臨時軍事費ノ中ニ驅逐艦建造費ヲ入レルコトニ就テハ、形式ニ於テ幾分ノ疑ガアルト云フノ
 デ現在ノ海軍ノ實力如何ト云フコトノ質問ヲ發セラレタ時ニ、海軍大臣ハ之ニ向ッテ驅逐艦ノ現
 在ノ有様ヲ報告セラレタル時ニ、大岡委員ハ奮然立ッテ聲ヲ厲マシテ、此説明ヲ遮リ止メラレタ
 ト云フコトハ、確ニ諸君ノ記憶セラレル所デアラウト思フ、斯ノ如ク局ニ當ル所ノ人ハ更ニ説明
 ヲ盡サントシテ、聽カントスルトコロノ委員諸君ハ却ッテ聽クベキトコロヲ聽カズニ居ル如キ
 形勢デアッタト云フコトハ、特ニ本會ニ於テ之ヲ言フベキ必要ガアルト本員ハ思フノデアリマ
 ス、ソレ故ニ舉國一致ノ實勢ヲ内外ニ明カニスルニ當ッテ、局ニ當ルトコロノ人ハ外交ノ方面モ
 亦陸海軍ノ事實モ細カニ説明セラレテ、最早議盡キタリト云フノデ尙通告者四人ヲ餘スニ拘ラ
 ズ、政友會諸君ノ多數ノ意見ニ依テ委員長ガ質問ヲ此所ニ中止セラレタト云フコトモ事實デア
 リマス、尙正スベキ所ノ事實ガアル、何故ニ通告既ニ委員長ノ手許ニ在ルニ當ッテ其質問ヲ中止
 セラレタノデアアルカ、最早聽クベキ所ハ既ニ盡キタリト云フ事實ヲ茲ニ示シテ居ルデハナイカ
 ト思フノデアリマス……賛成ノ理由デス、舉國一致ノ理由ヲ説明スルノデアリマス、此事ハ全
 國ノ人ニ説明スベキトコロノ事實デアリマス、更ニ聽捨テニナラザルトコロノコトハ、現大隈總
 理ハ國會ヲ無視シテ憲法ノ緊要ナル點ニ抵觸スルト云フコトヲ、大岡君ノ口ヲ衝イテ茲ニ出タ
 ト言フコトニ至ッテハ、是レ分明ニ不服ナガラ此原案ニ一致シタト云フコトヲ、言外ニ漏ラサレ
 タコト、本員ハ思フノデアリマス、此事實モ明白ニ天下ニ告ゲベキトコロノ緊要ナルコトデア
 ルト本員ハ思フノデアリマス、大隈伯ハ總テ議會ヲ重ズルト云フコトヲ宣明サレテ立ッタ内閣デ
 アッテ、此軍國ノ際ニ於テ此精神ヲ變ヘラレタト云フコトハ吾々ハ信ジナイ、併ナガラ萬一ニモ
 左様ナル間違ッタル言動ヲセラル、ニ至ッテハ、諸君ノ反對ヲ待タズ、吾々同志モ亦是ニ向ッテ警
 告ヲ與ヘナケレバナラス、場合ニ依ッテハ反對ヲシナケレバナラヌト本員ハ思フノデアリマス、
 併ナガラ心ヲ平カニシテ當時ノ應酬並ニ問答等ヲ承ッテ見ルニ、意味ヲ明白ニセズシテ舉國一致
 ヲ強イルト云フ態度ヲ取ラル、ト云フコトハ、如何デアアルカ、是ガ委員ノ方ノ口ヲ衝イテ出タト
 コロノ言葉デアリマス、ソレ故ニ大隈總理大臣ハ決シテ諸君ヲ強ルノデハナイ、舉國一致ヲ望ム

ノデアアルケレドモ、無理ニ強イテ異説デアアルモノヲ同説ノ如クナサシムルト云フコトヲ強ルモ
 ノデハナイト云フコトヲ説明セラレタノデアリマス、希望ト云フコト、強イテ求ムルト云フコ
 ト、ハ完ク性質ガ違ウテ居リマス、心ニ不服ヲ懷イテ強イテ形式的ニ賛成ヲスルト云フコトハ、
 自由ヲ得テ居ルトコロノ議員ノ決シテ甘ンズベキトコロノコトデハナイ、吾々ハ本案ヲ賛成ス
 ルノデアアル、眞ニ衷心ヨリ舉國一致ヲ望ンデ出征軍ノ後援ヲセンガタメデアリマス、繰返シテ申
 セバ強イテ求ムルト云フコト、希望スルト云フコト、ハ完ク違ッテ居リマスカラ、内閣ハ全會
 一致ヲ求ムルガタメニ、手數ヲ重テテ二日間ノ問答ニ時ヲ少シモ惜マナカッタ……更ニ尙四人ノ
 通告ガアルニ拘ラズ、自ラ質問ヲ中止シテ、通告シタトコロノ委員ノ發議ヲ爲スヲ不要ナリトシ
 テ討論ニ入ッタノデアリマス、此間マサカニ諸君ハ不服デアアルガ、心ヲ曲ゲテ賛成スルト云フヤ
 ウナ卑劣漢ニアラザルコトヲ信ズルガ故ニ、衷心ヨリ之ヲ賛成シテ全會一致ノ可決ヲ得タト云
 フコトヲ私ハ信ズルノデアリマス、本員ハ此意味ニ於テ本案ヲ全部賛成スルモノデアッテ、内閣
 諸公ハ努メテ此意思ヲ體シテ其功ヲ收メラレンコトヲ切望スルノデアリマス

議長ハ討論已ニ盡キタリト認メ表決ニ及ヒ軍國ノ際重要ナル議案ナルヲ以テ之ヲ起立ニ諮フ總員
 起立、全會一致ヲ以テ兩案ヲ可決シ即日貴族院ニ送付ス、同院ハ九月九日執レモ可決奏上シ同月十
 日ヲ以テ公布セラル

第二款 政府提出法律案

一 大正三年臨時事件ニ關スル臨時軍事費特別會計法案

大正三年臨時事件ニ關スル臨時軍事費特別會計法
 大正三年臨時事件ニ關スル臨時軍事費ノ會計ハ一般ノ歳入歳出ト區分シ事件ノ終局迄ヲ一會計
 年度トシテ特別ニ之ヲ整理ス

三年九月四日單ニ緊急事件トシテ本院ニ提出、翌五日第一讀會ヲ開キ若槻大藏大臣ハ左ノ如ク趣
 旨ヲ辯明セリ

臨時軍事費特別會計法案ノ事柄ニ就キマシテハ、午前中ニ其必要ナル理由ヲ申上ゲマシタガ、戰
 時費ハ一般ノ政費ト區別シテ整理シマスル方ガ便宜デアリマスノミナラズ、戰爭ノ終リマスル
 マデ一會計年度トシテ整理致ス方ガ、戰時費ノ全體ヲ見マス上ニ於テ便宜デアリマス、故ニ其必
 要カラ茲ニ此法律案ノ御協賛ヲ仰グヤウニナッタ次第デアリマス、ドウゾ御協賛ヲ與ヘラレンコ
 トヲ希望致シマス

次テ委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ議長ハ直ニ之ヲ指名ス、委員ハ同日委員長及理事ノ互
 選ヲ行ヒ審査ノ末全會一致ヲ以テ原案ヲ可決シ、同月七日報告書ヲ議長ニ提出セリ
 同日議事日程ヲ變更シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長柚木慶二君ハ左ノ報告ヲ爲ス

私ハ簡單ニ本案ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、本案ハ御承知ノ通り今回ノ臨時軍事
 費ハ普通一般ノ歳入歳出ト區分致シマシテ、此事件ノ終局スルマデヲ一會計年度トシテ之ヲ整
 理スルト云フ案デゴザイマス、私共委員ハ先ズ委員長理事ヲ選舉シマシテ、而シテ此案ノ審査ニ

カカッタノデアリマス、其審査ノ結果ハ本案ハ適當ナルモノト認メマシテ、委員會ハ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、此段御報告致シマス

別ニ討論ナク第二讀會及第三讀會ヲ省略シテ院議本案ヲ採用シ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付、同院ハ九月九日可決奏上シ同月十日法律第四十二號ヲ以テ公布セラル

二 輸入税率等ノ特例ニ關スル法律案

輸入貨物ニシテ大正三年八月二十三日以前ニ本邦ニ向ケ發送セラレタルモノナルコトヲ證明シ同年十二月末日迄ニ輸入申告ヲ爲スモノニ對シテハ同年八月二十二日ニ輸入申告ヲ爲シタル場合ニ於テ適用スル税率ト同一ノ税率ニ依リ輸入税ヲ課ス

關稅定率法第八條ノ規定ニ依リ輸入税ヲ免セラルル物品ニシテ大正四年七月三十日迄ニ再輸出ノ期限到來スルモノニ付テハ其ノ期限ハ大正四年七月末日トス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一項ノ規定ハ大正三年八月二十三日以後本法施行前ニ輸入申告ヲ爲シタル貨物ニ、第二項ノ規定ハ大正三年八月一日以後本法施行前ニ再輸出ノ期限到來シタル物品ニ亦之ヲ適用ス

三年九月四日單ニ緊急事件トシテ本院ニ提出、翌五日第一讀會ヲ開キ若槻大藏大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

御承知ノ如ク日本ト獨逸トノ間ニハ、或物品ニ就テ税率ノ協定ガシテアルノデアリマス、然ルニ此度兩國ノ間、戰爭ニ依テ國交ガ斷絶シマシタ爲メニ、其協定税率ハ效力ガ消滅スルコトニナツタノデアリマス、然ルニ戰爭ノ布告前ニ戰爭ノ宣布セラレマス以前ニ、外國ノ港ヲ出テ日本ノ方ニ仕向ケラレタ獨逸ノ物品ハ、日獨協定税率ノ利益ヲ受ケルト思ッテ、其商人ガ之ヲ輸入シテ居ルノデアリマスノニ、戰爭ノ爲メニ俄ニ其利益ガ受ケラレヌト云フコトニナリマスト云フト、輸入者ハ非常ニ利益ノ計算ノ上ニ於テ齟齬ヲ生ズルノデアリマス、ノミナラズ日獨協定税率ニ對シテハ、獨逸以外ノ日本ト條約ヲ結ンデ居ル國ニシテ、最惠國條款ノ特典ヲ持ッテ居リマス國ノ物品ハ、皆之ニ均霑シテ居ッタノデアリマスカラシテ、先月ノ二十三日以前ニ是等ノ國ノ港ヲ出テ日本ニ仕向ケラレタ物品ハ、皆日獨協定税率ト同ジヤウナ税率ノ適用ヲ受ケルト思ッテ商人ガ輸入シテ居リマシタノニ、戰爭ノ爲メニ其豫想ガ、狂ヒマスト云フコトハ、商賣ノ取引ノ上カラ言フト非常ニ難義ヲ來ス次第デアリマスカラ、ソレデ知ラズシテ彼ノ地ヲ出タ物品ニシテ、本年ノ十二月一杯ニ日本ノ稅關ニ輸入申告ヲ致シマシタモノニ對シテハ、ヤハリ日獨協定税率ト同ジ税率ヲ適用シテ、其商賣上ノ計算ニ狂ヒナカラシメントスルノガ本案ノ一項ノ趣意デアアルノデアリマス、今一項ハ日本ニ外國ノ物品ヲ輸入致シマシテ、之ニ日本ノ土地デ加工致シテ外國ニ出シマスト云フト、元ト入レタ物品ハ一年內ニ加工シタモノヲ外國ニ出スナラバ、元ト輸入シタモノ、品物ノ輸入税ハ取ラヌト云フノガ現行法ノ規定デアリマス、然ルニ此規定ニ基イテ今日本ノ港其他ニ入ッテ加工セラレツ、アル品物ガ今回ノ事變ノ爲メニ、或ハ海上ノ危險ナルガ爲メニ、或ハ爲替ノ不便ナルガ爲メニ、其他ノ關係ニ依テ一年內ニ輸出ガ出來ナイト云フヤウナ事

情ヲ生ジタモノガアルノデアリマス、是等ノ品物ハ、元來元ノ品物ハ税ヲ取ラレヌト思ッテ入レ
タニモ拘ラズ、今回ノ事變ニ依テ、俄ニ税ヲ納メナケレバナラヌト云フヤウニナリマス、ト云フ
ト、是亦當該商人ガ非常ニ損失ヲ受ケル譯合デアリマスカラ、是モ亦來年ノ七月一杯マデハ期限
ヲ延バシテ、其間ニ輸出スレバヤハリ元ノ品物ニハ税ヲ取ラヌト云フ恩典ヲ受ケシムルガ爲ニ、
即チ今回ノ事變ノ爲メニ商人同士ガ考ヘテ居タコトニ大ナル齟齬ガ生ゼヌヤウニ、其移リ變リ
ノ所ノ經過ノ法律トシテ、此法案ヲ提出シテ御協賛ヲ仰グ次第デアリマス、是亦成ベク速ニ御協
賛ヲ與ヘラレンコトヲ切ニ希望致シマス

別ニ質疑ナク委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ議長ハ即日之ヲ指名ス、委員ハ同日委員長及
理事ノ互選ヲ行ヒ引續キ審査ニ著手シ本案ニ修正ヲ加ヘ九月七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

(小字及——ハ委員會修正)

輸入貨物ニシテ ^{大正四}大正三年八月二十三日以前ニ本邦ニ向ケ發送セラレタルモノナルコトヲ證明シ

同年 ^{大正三}十二月末日迄ニ輸入申告ヲ爲スモノニ對シテハ ^{大正三}同年八月二十二日ニ輸入申告ヲ爲シタル場

合ニ於テ適用スル税率ト同一ノ税率ニ依リ輸入税ヲ課ス

關稅定率法第八條ノ規定ニ依リ輸入税ヲ免セラルル物品ニシテ大正四年七月三十日迄ニ再輸出

ノ期限到來スルモノニ付テハ其ノ期限ハ大正四年七月末日トス

三 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一項ノ規定ハ大正三年八月二十三日以後本法施行前ニ輸入申告ヲ爲シタル貨物ニ、第二項ノ
規定ハ大正三年八月一日以後本法施行前ニ再輸出ノ期限到來シタル物品ニ亦之ヲ適用ス

同日議事日程ヲ變更シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長山本悌二郎君ハ審査ノ經過及結果ニ付左ノ
報告ヲ爲ス

輸入税率等ノ特別ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ本會ニ於
テ政府カラモ説明ガアリマシタ通り、日獨間交戰狀態ニナリマシタガタメニ、自然ノ結果ト致シ
マシテ日獨間ニ締結サレテ居リマス、トコロノ關稅條約ト云フモノガ失効ニ歸シマス、ルガ故ニ、
此失効ヲ豫期セズシテ、即チ從來ノ協定税率ガ存在セル時期ニ於テ、品物ヲ積出シタモノガ多々
アリマス、ルノデ、是ガ我國ヘ到着致シマス、トキニハ當然ノ結果トシテ國定税率ニ掛ラヌケレバ
ナリマセヌノデ、左様致シマス、ルト云フト其當業者ハ多大ノ損失ヲ蒙ラナケレバナリマセヌガ
故ニ、茲ニ特例ヲ設ケマシテ、此等ノ當業者ノ損失ヲ救済スルト云フノガ一ノ趣意デ、ゴザイマ
ス、モウ一ツハ此教育品並ニ見本品等ノ如キ物ハ、一旦我國ノ内地ニ輸入サレマシテモ、一年ノ
期間ニ於テ再ビ輸出ヲ致シマス、レバ輸入税ヲ免除サレルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス
ルガ、是モ同ジク國交斷絶ノ結果トシテ、此取扱ヲ其儘ニ致シテ置キマシテハ取扱ヲ致スコトガ
出來ヌコトニナリマス、ルガ故ニ、特ニ此法案ニ據テ救済ノ途ヲ立テヤウト云フノガ第二ノ點デ
アリマス、委員會ニ於キマシテハ是ニ對シテ三箇ノ修正案ガ提出サレマシタガ、其中二箇ハ成立
致シマセヌデ、残り一箇ガ成立致シタ次第ゴザイマス、其修正案ハ御手許ニモ廻ッテ居リマス
ル通りニ輸入貨物ノ積出期間ト云フモノハ、國交斷絶ノ日、即チ八月二十三日以前ニアルト云フ
コトガ、此必要條件ニナッテ居リマス、ルガ、此八月二十三日ト云フ期限ヲ削除シテ、而シテ我國ヘ

到著致シマスル期限ヲ本年ノ十二月末日迄トシテアリマスルノヲ、ソレヲ來年ノ即チ大正四年三月末日ト致サウ、斯様ニ修正致シタノデアリマスル、ソレカラ其趣意ハ八月二十三日ノ國交斷絶以前ニ積出サレタル物ト云フコトニ限リマスルト云フト、例ヘバ契約ノ結果トシテ八月二十三日以前ニ積出スコトガ出來ナカッタガ、其以後即チ契約ハ八月二十三日迄ニシテ居リマスガタメニ、其積出ガ八月二十三日以後ニ互ルコトガ出來テ參リマスカラ、サウ云フ場合ニ處スルニハ、八月二十三日以前ト確定致シテアリマシテハ、甚ダソレ等ノ場合ニ困難ヲ感ズルコトゴザイマスガ故ニ、此期日ハ除イテシマッタ宜カラウ、ソレカラ十二月末日ト云フノヲ來年ノ三月末日ト致シマシタノハ、十二月末日ト致シマシテハ、餘リ期間ガ短カ過ギルデハナイカ、普通ナラバ無論大抵本邦ヘ本年一抔テ到著致シマスルデゴザイマセウケレドモ、往々ニシテ海上風波ノタメニ中立國等ヘ避難ラシテ居リマスル船ガアリマスルシ、又甚シキハ獨逸船ニ積込ミマシタトコロガ、獨逸船ガ徵發ノ命令ニ接シマシタガタメニ、途中デ勝手ナ所ヘ陸揚ラシテ船ハ引返ヘス、即チ荷物ハ何所カニ陸揚ラシテ其儘ニナッテ居ルト云フヤウナコトガアリマスノデ、斯様ナモノガボツツ、到著スルノハ或ハ本年一抔ト云フ期間デハ、不足デアラウト云フ趣意カラシテ、三月三十一日ト云フコトニ訂正ラ致シタ次第デゴザイマス、尤モ是ニ付キマシテハ最初ノ積出期間、即チ積出期限八月二十二日ト云フモノヲ削除致シテハ、協定稅率ト云フモノヲ其儘ニ繼續スルト云フ姿ニナッテ即チ國交斷絶ト同時ニ、當然有效ニ相成ルベキトコロノ國定稅率ト云フモノヲ自ラ取消スヤウナ姿ニナリハセヌカト云フヤウナ議論モアリマシタケレドモ、是ハ最後ノ期日、即チ來年三月三十一日ト云フコトガ規定シテアリマスカラシテ、敢テ國定稅率ノ破壞ト云フコトニハ相成ラヌノデアリマス、即チ三月三十一日迄協定稅率ト同一ノ稅率ヲ適用サレノデアリマス、其以後ハ國定稅率ガ有效ニナッテ來マスカラ、今ノヤウナ懸念ガナイコトニナリマス、ソレカラ要スルニ今回ノ時局ニ對シマシテハ、非常ナ場合デアリマスカラ、出來得ル限リ當業者ノ利便ヲ圖リ損失ヲ少ウスルト云フコトニ吾々ハ盡力致サンケレバナラヌノデ、此本案ヲ提出セラレタノニ外ナラヌノデアリマス、ケレドモ寧ロ左様ナ法律ヲ拵ヘルナラバ、帶ニ短シ禱

ニ長シデハ役ニ立チマセヌカラ、ソレ故ニ完全ニ此目的ヲ達セシメテ、貿易業者並ニ之ニ關聯スル商工業者、消費者共ニソレニ均霑スルヤウニ致シタイト云フ趣意デ、斯様ニ修正致シタ次第デアリマス、ドウゾ御協賛ヲ希望致シマス

別ニ討論ナク直ニ第二讀會ヲ開キ委員會ノ報告全部ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定セリ即日貴族院ニ送付、同院ハ九月九日可決奏上シ同月十一日法律第四十三號ヲ以テ公布セラル

三 戰時海上保險ニ關スル法律案

保險業者カ政府ノ定メタル海上保險料率以下ニ於テ保險契約ヲ爲シ戰爭ニ因リテ生シタル損害ヲ填補シタルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保險業者ニ對シ其ノ金額ノ一部ヲ補償スルコトヲ得

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三年九月四日單ニ緊急事件トシテ本院ニ提出、翌五日第一讀會ヲ開キ大浦農商務大臣ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

唯今議題ニ上リマシタル戰時海上保險ニ關スル法律案ハ、御承知ノ通り八月初メ歐洲ノ平和俄

ニ破レ、忽チ東洋ニ波及致シマシテ、一般ノ經濟界ニ非常ナ影響ヲ及ボシマシタルコトハ御承知ノ通りデゴザイマス、就中海外輸出貿易者ガ最モ打撃ヲ蒙ッタノデゴザイマス、此ニ於テ一般ノ貿易業者ヲ救済スルト云フノデ、東京商業會議所其他ヨリ續々ト救済ノコトヲ申出タノデゴザイマシテ、政府ハ充分ニ調査ヲ致シマシテ此法律ヲ提出シタノデゴザイマス、要スルニ此法律ハ保險業者ノ率ガ非常ニ高率ヲ示シマシテ、唯今ニ於テハ平常ノ四倍或ハ五倍ニナツテ參リマシタガ、尙ドウ云フ變動ヲ來スカモ知レヌト思ヒマシテ、茲ニ於テ其率ヲ政府ガ示シテ、其率以內ニ於テ保險契約ヲ爲シタモノガ萬一ノコトガアッタ場合ニ、其保險業者ガ補填スルトコロノ額ノ約八割ヲ政府ニ於テ補填スル、斯ウ云フ大體ノ法律デゴザイマス、此法律ハ元ヨリ御承知ノ通り我日本ニハ始メテノ法律デゴザイマシテ、世界各國中英、佛、米、伊、此四箇國ニ於テ或ハ實行シテ居ル所モアリ、或ハ又實行セントスル所モゴザイマスガ、大概ハ始メテノヤウニ存ジマス、何レ委員會ヲ開カレマシタ時分ニ、尙ホ詳シク御相談ヲ致シタイト存ジマス、大體ニ於テノ説明ヲ致シテ置キマシテ、御贊同ヲ願ヒタイト思ヒマス

質疑應答ノ後委員ノ選舉ハ議長指名(十八名)ニ決シ議長ハ直ニ之ヲ指名ス、委員ハ同日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末全會一致ヲ以テ本案ニ修正ヲ加ヘ表題ヲ「戰時海上保險補償法案」ト改メ九月七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

(委員會報告書)

戰時海上保險補償法

第一條 日本ノ保險業者又ハ外國保險業者ノ日本ニ設ケタル支店、事務所若ハ代理店カ主務官廳ノ定メタル海上保險料率以下ニ於テ保險契約ヲ爲シ戰爭ニ因リテ生シタル損害ヲ填補シタ

ルトキハ政府ハ保險業者ニ對シ其ノ填補額ノ一部ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ受ケムトスル者ハ損害填補ノ日ヨリ二箇月内ニ申請スルコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條 補償ヲ受クルコトヲ得ヘキ保險ノ目的ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 日本ニ船籍ヲ有シ主務官廳ノ定メタル航路ノ航海ヲ爲ス船舶但シ政府ニ徵用セラレ、政府、外國政府若ハ外國人ノ貸付シ又ハ之ニ對シ船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト爲シタル場合ハ之ヲ除ク

二 日本ヨリ輸出シ若ハ之ニ輸入スル積荷又ハ前號ニ掲ケタル船舶ニ搭載スル積荷

再保險契約ニ付テハ其ノ元受保險契約亦前項ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

遞次ニ再保險ニ付シタル場合ニ於テ其ノ再保險者中前項ノ要件ヲ具備セサルモノアルトキハ其ノ者以後ノ再保險者ハ補償ヲ受クルコトヲ得ス

第三條 主務官廳必要アリト認ムルトキハ前二條ノ規定ノ範圍内ニ於テ補償ヲ受クルコトヲ得ヘキ保險業者又ハ保險ノ目的タル船舶若ハ積荷ノ範圍ヲ制限スルコトヲ得

第四條 元受保險業者カ再保險ニ付シタル場合ニ於ケル補償ニ關スル規定ハ主務官廳之ヲ定ム

第五條 保險業者カ委付ニ依リテ取得シタル權利ノ價額ハ之ヲ填補額ヨリ控除シ其ノ殘額ニ依

リ補償額ヲ算定ス

前項ノ權利ノ價額ハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ主務官廳之ヲ定ム

第六條 主務官廳ノ補償ニ關スル處分ヲ受ケタル者不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ補償金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同日議事日程ヲ變更シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長鶴澤總明君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

戰時海上保險ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過及結果ヲ報告致シマス、此案ハ原案ニ於テハ一箇條ヨリ成ツテ居リマシテ、大體ヲ命令ニ委任サレテ居タノデアリマス、然ルニ斯様ナ法律案ヲ命令ニ委任スル所ノ例ヲ作ルコトハ宜シクナイ、斯ウ云フ議論ガアリマシテ、本會ニ於テモサウ云フ議論ガアリ、又委員會ニ於テモサウ云フ議論ガアリマシテ、是ハ出來得ル限リ法律ノ方法ニ改テ宜カラウト云フコトニナリマシテ、法律ノ形ニ改タノデアリマス、夫カラ内容ニ付テハ政府ニ於テモ此ノ如キ法案ノ制定ハ今回ノ場合ガ始メテデアツテ、各國ノ立法例等モ十分ニ參照スルノ違ガナイ、夫カラ内閣ニ於テモ十分取調ベル違ガナイケレドモ如何ニモ重大ノコトデアルカラシテ、成ルベク緊急ノ場合ニ於テ出來ル限リノ完全ヲ期シタイト云フ様ナ趣旨デ提案サレタノデアリマス、委員會ニ於キマシテモ大分質問モアリ、更ニ又小委員ヲ選ビマシテ段々ト研究ヲ

致シマシタ、政府トモ相談ノ上ニ左ノ様ニ案ガ出來タノデアリマス、是ハ一々讀ムノハ大變デアリマスカラ讀ムノヲ省キマシテ唯第一條カラ第六條迄ノ法律文ガ出來テ居ル、詳シイコトハ御覽ノ上御承知ヲ願ヒタイ、夫カラシテ此案ハ本當ノ全會一致デアッタト云フコトヲ御報告ヲ致シマス院議異議ナク直ニ第二讀會ヲ開キ委員會ノ報告全部ヲ採用シ第三讀會ヲ省略シテ之ヲ確定ヒリ即日貴族院ニ送付、同院ハ九月九日可決奏上シ同月十二日法律第四十四號ヲ以テ公布セラル

第三款 上奏案

開院式 勅語奉答文案

三年九月四日本院ハ開院式ニ賜ハリタル 勅語ニ對シ直ニ奉答文ノ件ヲ院議ニ付シ議長指名ヲ以テ十八名ノ起草委員ヲ設ク起草了ルヤ會議ヲ再開シ委員長元田肇君ハ「本員ハ唯今御指名ニナリマシタ奉答文起草委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、委員ハ議長ヨリ指名ヲ受ケマシテ、直ニ會議ヲ開キマシテ、委員長理事ノ互選ヲ行ヒマシタガ、前ノ議會ノ通ニ就任ヲシタガ宜カラウト云フコトデゴザイマシテ、委員長ニ不肖、理事ニ花井博士ガ當選サル、コトニ相成リマシタ、次デ慎重ニ審議ヲ致シマシテ唯今朗讀致シマスル所ノ奉答文案ヲ起草致シマシタ(奉答文ハ第一章ニ掲ク)……」ト報告シ奉答文案ヲ朗讀ス 總議員起立敬意ヲ表シ全會一致ヲ以テ之ヲ可決シタリ

第四款 建議案

蠶絲業救濟ニ關スル建議案

歐洲戰亂ノ爲ニ大打撃ヲ被ムレル蠶絲業ニ對シ政府ハ速ニ低利金融ノ途ヲ開キ之ヲ救濟セラレムコトヲ望ム
右建議ス

三年九月五日武藤金吉君外二十八名提出、翌六日院議ニ付シ提出者(武藤金吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

蠶絲業救濟ニ關スル建議案ノ提出者ノ一人トシテ、提出ノ理由ヲ說明致シマス、今回歐羅巴ノ戰亂ノタメニ、我輸出貿易ノ大宗タル蠶絲ハ非常ナル打撃ヲ蒙リマシテ、先月以降今日ニ至ルマデ取引ノ停止又ハ金融ノ杜絶ノタメ、價格ハ大暴落ヲ來シマシテ、開港以來未ダ曾テアラザルノ窮境ニ陥ツテ居リマス、是ガタメ我兌換制度ハ殆ド危機ニ瀕セント致シテ居ル次第デアリマス、尙今日ニ於テモ是ガタメニ全國當業者タル二千五百ノ製絲家、百六十萬ノ養蠶家ハ、製絲ヲ擁シ若クハ成繭ヲ抱イテ悲境ニ在リ、殆ド五里霧中ニ彷徨致シマシテ、其業ニ安ンゼヌト云フ狀態デアリマス、先月ノ初メニ當リマシテ朝野ノ人士ハ之ヲ救濟シタイト云フコトデ、海上ノ保險ニ付

テ、或ハ外國爲替ニ付テ、或ハ内地金融等ニ付テ心配ヲ致シマシテ政府ニ交渉ヲ致シマシタ所、政府ハ應急ノ策トシテ亞米利加ニ荷爲替ノ著キマセヌモノヲ、危險ヲ冒シテ橫濱正金銀行ヲシテ荷爲替ヲ著ケルコトニ同意ヲサレ、又橫濱ニ堆積シテ居ル持越シ品ノ製絲ニ對シテハ、日本銀行ヲ致シマシテ再割引ヲナサセル、生絲手形ヲシテ此狀態ヲ救フト云フコトヲ農商務省大藏省等ニ於テハ承諾ヲ致サレマシテ、稍、其當時ニ於テハ慰安スルコトガ出來マシテ、當業者モ聊カ安ンジタノデアリマス、然ルニ其結果トシテ百斤ニ付テ八九十圓方一時相場ヲ回復シマシタ、然ルニ又々歐洲ノ戰爭ノ模様ハ急ニ濟ミサウニナイ今日デアリマスカラシテ、是ガタメニ又々下降ヲ致シマシテ、今日ハ殆ド當業者ハ其適從スル所ヲ知ラナイヤウナ有様デアリマシテ、若シ之ヲ急ニ救フトコトガ出來ヌト致シマス、經濟界ハ非常ナル恐慌ヲ起シ、製絲家ノ破産トナリ、養蠶家ハ乾繭ヲ抱イテ賣レナイノデ居ルノミナラズ桑園ノ荒廢トナリ、延イテ明年ノ養蠶ハ是ガタメニ大ニ生産ヲ減ズルト云フコトニナルノデアリマシテ、洵ニ時局ニ伴フ我經濟上ニ於ケル由々敷大事デアアルノデアリマス、是レ即チ此建議案ヲ軍國議會ニモ拘ラズ提出ヲ致シテ諸君ノ御協贊ヲ仰ガントスル次第デアリマス、惟フニ我國ノ蠶絲ハ其販路ハ亞米利加ト歐羅巴デアリマス、一昨年ハ蠶絲ハ一億五千萬圓ニ達シテ居リマス、昨年ハ一億九千萬圓ノ上ニ上ツテ居リマス殊ニ屑物、絹織物、羽二重等ヲ加ヘマスト、昨年ハ二億二萬圓ノ上ニ上ツテ居リマス、本年ハ七月中ノ調ニ依リマスト、昨年ヨリモ一千二百萬圓ノ輸出過剩ヲ示シテ居リマスカラ、七月ノ景氣デ參リマスト本年ハ少ナクモ絹ニ關係ヲ致シマシタ輸出額ノ金高ハ、一億五六千萬圓ヲ日本ニ收メルコトガ出來ルノデアリマス、而シテ今日ノ悲慘ナル狀況ヲ呈シマシタノハ、單ニ歐羅巴ノ戰爭デアリマス、亞米利加トハ何等ノ關係ハナイノデアリマス、我ガ此大ナル輸物ハ亞米利加ニ多ク參リマシテ——其七割以上ハ亞米利加ニ參ルノデアリマス、其他ノ三割ガ歐羅巴ニ參ルノデアリマシテ、亞米利加ハ殊ニ本年ハ非常ノ豐作デアリマシテ、小麥、玉蜀黍、又ハ葡萄等ハ十數年ニナイ豐作デアリマス、殊ニ鐵ノ相場ノ好イノ——ソレノミナラズ、米國ハ今回ノ戰亂ノ局外中立デアリマスカラシテ、食料品ヲ始メトシテ主ナル品物ハ歐羅巴ガ皆亞米利

加ヨリ供給ヲ仰イデ居リマスカラ、亞米利加ノ景氣ハ非常デアリマス、是ガタメニ亞米利加ノ絹織物ハ本年ハ機屋ガ大ニ之ヲ占メルコトニナツテ居ルノデアリマス、而シテ此絹織物ニ付キマシテ一言辯ジテ置キタイト思フノハ、絹織物ハ奢侈品デアリマセヌ、絹織物ハ世界ニ於ケル中以上ノ衣服ノ日用品デアリマシテ、戰爭ガアルカラ賣レナイト云フ理由ハナイノデアリマス、現ニ日露戰爭ノ際ニ於キマシテモ、我ガ生絲ハ佛蘭西伊太利等ヲ通ジマシテ、ヤハリ莫斯科「ワルセウ」等ノ露西亞ノ機業家ニハ、我邦ノ生絲ガ買ハレテ居ルヤウナ有様デアリマス、而シテ歐羅巴ニ於ケルトコロノ需用ハ、全ク無クナルカ無クナラヌカト云フコトハ、別ノ問題ト致シマシテモ、歐羅巴デハ世界ニ於ケル産額ノ三割ヲ佛蘭西、伊太利、埃太利、洪牙利、瑞西等外七八箇國デ生産シテ居リマスルガ、此戰爭ノタメニ——縱シ此戰爭ガ短カクトモ生産額ノ三割ヲ明年ニ於テ出スコトガ少ナクナルノデアリマス、況ヤ此戰爭ガ長クナリマシタナラバ、此世界ノ産額ノ三割ヲ持ツテ居ル歐羅巴ハ、到底之ヲ出スコトガ出来ナイ狀況ニアルノデアリマス、日本ハ今日ノ場合ニ於テ先以テ此生産ヲ減退ヲサセナイト云フ方針ヲ執ルノガ最モ必要デアアルノデアリマス、然ルニ政府ニ於キマシテハ、此戰爭ニ對シマシテ經濟ノ狀態生産ノ發達ヲサスルト云フ方針ヲ執ラレルト云フコトハ、文章ノ上、訓令ノ上デハ確カニ吾々ガ拜見ヲ致シテ居リマスガ、此生絲ガ今日ノ如キ悲惨ナル狀況ニアルニモ拘ラズ、却テ民間當業者カラ迫ラレテ已ヲ得ズヤルト云フヤウナ傾向ヲ呈シテ居リマシテ、政府ハ何等ノ施設ガシテナイノデアリマス、又是等生絲貿易ノ前途經濟ノ狀態ニ對シテ何等ノ定見ヲ持ツテ居ナイト云フコトハ、誠ニ私ハ今日ノ時局ニ對シテ我ガ經濟界ノタメニ深く憂フベキコトデアルト思ヒマス、此時ニ當リマシテ一、二應急ノ策ハ出来テ居リマスルガ、此當業者ヲシテ安ンジテ此業ニ就カシメ又恐慌ヲ防ギ破産ヲ防グト云フニハ、ドウシテモ此金融ノ途ヲ開イテ製絲家ヲ保護スルノミナラズ、地方ニ散在致シテ居リマスル農家ノ大部分ハ、副業ヲ致シテ居リマスル養蠶家ニ此恩惠ヲ及ボスノ策ヲ立テズンバ本年ノ苦痛ヲ除クコトバカリデハナイ、明年ニ於ケルトコロノ生産ノ減退ヲ防グコトモ出来ナイ次第デアリマスカラ、此際低利ナル金融ノ途ヲ開キマシテ、速カニ此救濟ノ方法ヲ講ゼラレルト

云フコトハ、即チ時局ニ於ケル經濟ノ狀態ヲ救フ所以デアルト同時ニ、我兌換制度ヲ維持スル所デアルト思ヒマスル、而シテ生絲繭ト云ヘバ直チニ金デハナイヤウニ思ヒマスルガ、此生絲ハ横濱ヲ出マスレバ直チニ金貨トナリマシテ、我ガ輸出貿易ノ中デ正貨ノ流失ヲ直ニ防グコトノ出来ル力ノアルモノハ、我輸出貿易總額ノ四割一分ヲ占メテ居ル此生絲デアリマス、政府當局ハ此生絲ニ對シテ、生絲ガ金貨デアルト云フ觀念ガ薄イノヲ私ハ甚ダ遺憾トスルノデアリマス、殊ニ若槻大藏大臣ノ如キハ此戰爭ニ對シマシテ、正貨ハ今日三億二千五百萬圓アル、又銀貨ハ二千五六百萬圓アルト云フ御計算ヲナスツタガ、今後ニ於ケル我ガ正貨ト云フモノヲ唯現ニ在ル金ダケヲ勘定シテ置クダケデハ心細イコトデアリマス、正貨即チ生絲ナル此ノ輸出ヲスルニ無盡藏ナルトコロノ生絲ニ考ヘヲ置カヌト云フコトハ、甚ダ國家經濟ノ上遺憾ニ堪ヘナイ次第デアリマス、昨日モ請願委員會ニ於テ、ヤハリ是ト同様ノ私ノ紹介ニ係ル請願ガ出テ居リマスルガ、低利資金ノ融通ハ出来ヌト云フ農商務省ノ政府委員ノ答辯デアリマスガ、出来ヌコトハナイノデアアル萬々一金融ガ困難ナリトセバ内地ニ於テ——救濟方法トシテハ制限外ノ發行ヲ致シマシテモ、是ハ救濟ガ出来ルノデアリマス、現ニ伊太利ノ如キハ平時ニ於テサヘ蠶絲業ノ資金ノ爲メニ、伊太利銀行「ミラン」銀行「ドリノ」銀行等ニ於キマシテ、五六千萬圓普通銀行法ノ外ニ法律ヲ以テ制限外ノ發行ヲ致シテ、蠶絲業ノ資金ニ提供ヲサレテ居ルノデアリマスルカラ、今回ノ時局ニ對シマシテハ——モ此金ガナイトスレバ——萬々ナイトスレバ止ムヲ得ズ制限外ノ發行ヲ致シマシテ、日本銀行、横濱正金銀行ヲ始メ、ソレ々ノ民間ノ各銀行ニ交渉シ是等適當ナル方法ニ待テ之ヲ救濟スルコトガ出来マシタナラバ、當ニ此蠶絲業者ヲ救濟スルニ止マラズ、我ガ國家經濟ノ根柢ヲ鞏固ニナラシムルコトガ出来ルト確信スルモノデアリマス、此軍國多事ノ秋ニ於キマシテ、此案ヲ提出スルノ已ヲ得ザル次第デアリマスカラ、宜シク諸君ノ御協賛ニ依リマシテ、國家ノ力ヲ以テ國家ヲ救フ、此目的ヲ達シタイト思フノデアリマス

次テ議長指名(十八名)ノ委員ニ付託スルニ決シ議長ハ直ニ之ヲ指名ス、委員ハ即日委員長及理事

ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末本案ヲ可決シ同月七日報告書ヲ議長ニ提出セリ
同日議事日程ヲ變更シテ再ヒ院議ニ付シ委員長武藤金吉君ハ左ノ報告ヲ爲ス

委員會ノ成績ヲ報告致シマス、委員會ハ昨日日本日二回ニ互リマシテ、開會ヲ致シマシテ、政府ノ所見ヲ尋ネマシタ、政府ハ本案ニ對シマシテ、本案ノ理由書ニ書イテアル通り、一時ノ應急ノ策ハ執ッテ居ルノデアリマス、而シテ更ニ此蠶絲業ノ外ニ一般輸出品、即チ羽二重、綿絲、花苧、燐寸、其他ノモノニ對シマシテモ、此救濟ノ法ヲ講ズル意思ガアルト云フコト及尙ホ此資金等ニ對シマシテハ特殊銀行即チ勸業銀行、府縣農工銀行等ヲシテ農工商業者ニ資金ノ融通ノ途ヲ講ジタイ積リデアル、而シテ其資金ハ如何ニシテ今拵ヘルカト云フコトハ、工夫懸案中デアルト云フコトデアリマス、是ハ尙政府ハ此建議ノ趣旨ニ對シマシテハ、最良最善ノ方法ヲ執ラウト云フ大藏大臣ノ御意見ガアッタノデアリマシテ、委員會ハ此趣意ニ政府ハ全然同意ノモノト認メマシテ、滿場一致ヲ以テ原案ヲ可決ヲ致シマシタ、尙之ニ加ヘテ希望ト致シマシテ、一般輸出品ニ對シテモ蠶絲業救濟ト同様ニ、低利金融ノ途ヲ開クコトヲ望ムト云フコトヲ委員會ハ加ヘテ決議ヲ致シマシタ次第デアリマス、此段御報告ニ及ビマス

院議異議ナク原案ヲ採用シ即日政府ニ呈出ス

第五款 請 願

議院法第六十四條第

(二項ニ依レルモノ)

請願委員ハ大正三年九月三日院議ヲ以テ前議會ノ委員ヲ其ノ儘本會期ニ於テ選舉シタルモノト認

メ九月五日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ(前議會通)其ノ審査ニ著手シタリ、
請願委員會ニ於ケル審査ノ結果ハ第六章第二節ニ摘記セルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス
請願特別報告ノ討議及表決ハ左掲ノ如シ

- 一 軍人恩給法改正ノ請願外一件(特二)
- 二 綿花爲替取組ニ關スル請願(特三)

兩請願ハ孰レモ三年九月五日報告、同月九日一括シテ之ヲ院議ニ付シ理事武滿義雄君ハ委員長ニ代リ左ノ報告ヲ爲ス

私ハ委員長ニ代リマシテ請願委員會ニ於ケル審査ノ結果ヲ御報告申上ゲマス、請願委員會ハ去ル五日ニ總會ヲ開キマシテ、當日迄ニ請願ノ受理サレタルモノガ六件、其中採擇ト決定致シマシタモノガ四件、參考送付ト決定致シマシタモノガ二件ゴザイマス、而シテ採擇致シマシタモノ、中、此特別報告第一號ニ屬スル分、即チ蠶絲業救濟ノ請願ハ、是ト同一ノ建議案ガ既ニ本院ヲ通過致シテ居リマス故ニ、先例ニ依ッテ是ハ報告ヲ要セヌト云フコトニナリマシタ、今茲ニ御報告ヲ致シマスノハ、特別報告第二號、軍人恩給法改正ノ請願、請願人ハ京都府中郡峯山町字吉原二十九番地士族農退役陸軍歩兵中佐蘆原甫外二名ノ呈出、紹介議員ハ岡田泰藏君、同ジク同上ノ請願、千葉縣印旛郡佐倉町内並木町二百十八番地山口縣士族後備歩兵大佐宍戶民輔外十二名呈出、紹介議員ハ柏原文太郎君、本請願ハ既ニ度々本議會ニ呈出ニナリ、其度毎ニ採擇ト云フコトニ決定ニナル請願デゴザイマスカラ、飽迄其内容ハ諸君ノ御承知ノコトデアラウト思ヒマス、恩給法

ガ改正サレマシテ、新舊其權衡ヲ得ヌト云フコトト、此經濟社會ノ狀態ガ一變致シマシテ、物價騰貴ノタメニ此現役ヲ離レテ居ル者或ハ軍人ノ遺族ハ、生活難ノタメニ追ハレテ居リマスカラ、軍人恩給法中ノ附則ヲバ改正シテ、同様ノ恩典ニ預カルヤウニシテ貫ヒタイト云フ請願デアリマシテ、此二箇ノ請願ハ請願委員會ニ於キマシテハ滿場一致ヲ以テ從前通り採擇スルト云フコトニ決定ヲ致シマシタ、次ハ文書表特別報告第三號、綿花爲替取組ニ關スル請願、請願人ハ大阪府大阪市西區江戶堀一丁目大日本紡績聯合會代表者委員長山邊丈夫呈出、紹介議員ハ田邊熊一君外四名デゴザイマス、本請願ノ内容ハ今回ノ戰亂ノ影響ヲ受ケマシテ紡績業ニ要シマスルトコロノ綿花ハ、外國爲替相場ニ甚シキ混亂ヲ惹起シ又金融モ非常ニ不圓滿デアリマシテ、非常ニ當業者ハ窮境ニ立ッテ居ルヤウナ次第デアリマス、此狀態ニシテ改マラズシテ、一朝不幸ニシテ此綿花輸入ノ途ガ杜絶致シマシタナラバ、當業者ハ工場ヲ閉鎖シテ事業ヲ中止スル已ムナキ悲惨ノ狀態ニ陥ラナケレバナラヌト云フ羽目ニナッテ居ルノデゴザイマス、果シテ斯ノ如クナレバ當ニ當業者ノ不幸ノミナラズ、國家ノ一大損失デアリマスルガ故ニ、何トカ政府ニ於テハ相當ノ詮議ヲシテ、外國貿易ノ金融機關ニ特殊ノ利便ヲ與ヘテ、而シテ此爲替取組ヲ容易ナラシメテ、現下ノ狀勢ヲ救済アラムコトヲ希望スルト云フノガ、此請願ノ要旨ニナッテ居ルノデアリマシテ、請願委員會ハ全會一致ヲ以テ相當ノ理由アルモノトシテ、採擇スルコトニ可決決定ヲ致シマシタヤウナ譯デアリマス、此段御報告致シマス

院議異議ナク各請願ヲ採擇セリ即日政府ニ送付ス

第七章 質問及答辯

本會期ニ於テ議員ヨリ政府ニ對シ爲シタル質問ハ内務ニ關スルモノ一件ノミトス左ニ其ノ質問及

答辯ヲ記スヘシ

藥價暴騰ニ關スル件

大正三年九月九日鈴木萬次郎君ヨリ左ノ質問ヲ提出シタリ

目下藥價暴騰ニ對シ政府ハ之ヲ救済スルノ方法ヲ講シツツアルヤ否若講シツツアリトセハ其ノ方法ノ明示ヲ望ム

當日鈴木萬次郎君ハ質問ノ趣旨ヲ辯明セムコトヲ請求シタルモ議長ハ既ニ議事日程ニ入りタルヲ以テ之ヲ許サス日程議了後院議之ヲ許可セサルニ決シ次テ同日大隈内務大臣ハ此ノ質問ニ對シ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

藥品價格ノ暴騰ハ國民衛生上ニ及ホス障害少カラサルモノアルヲ認メ政府ハ其ノ救済ノ爲メ左ノ方法ヲ講セリ

- 一 省令ヲ發布シテ其ノ輸出ヲ制限シ
- 二 成ルヘク速ニ輸入ノ途ヲ啓カムカ爲外國市場ノ狀態ニ關シテ調査ヲ怠ラス
- 三 内地製藥ノ獎勵ヲ爲シ

附 録

四 當業者ニ對シ嚴ニ警告ヲ加ヘ不正ノ手段ヲ弄シテ價格ノ騰貴ヲ計ルカ如キコトナカラシメ
苟モ藥品ノ販賣ヲ拒ミ又ハ不正ノ所爲ト認ムヘキモノニ對シテハ法令ニ照ラシテ嚴重ニ取
締リツツアリ

以上ハ從來既ニ採リタル方法ナルモ尙ホ政府ハ市場ノ狀態ニ注意スルコトヲ怠ラス必要ニ應ジ
テ機宜ノ措置ヲ採ラントス

衆議院記事摘要附錄

目次

一	議會開閉ニ關スル一覽表	一頁
二	議案(請願特別報 告ヲ含ム)經過表	一
三	質問及答辯表	三
四	請願委員會議事經過表	三
五	請願呈出府縣別表	四
六	委員會表	五
七	本會及委員會速記事務一覽表	六
八	議事錄、決議錄並議事日程表	六
九	印刷物表	七
一〇	傍聽券及傍聽人員表	八
一一	院內警察執行事務一覽表	九
一二	文書及面會受付表	一〇

一三 委員氏名錄 一一

一四 本院高等官氏名錄 一一

衆議院記事摘要附錄

一 議會開閉ニ關スル一覽表

選 回數	詔 書	舉 選日	詔 書	集 集日	開 會日	會 期延長	終 了	閉 會	會 期日數	開 會日數		
											日	日
第十一	明治四十五年 四月十一日	同 五月十五日	大正三年 八月二十三日	九月三日	九月三日	同月四日	九月六日	三日間	九月九日	同月十日	六日	五日

二 議案(請願特別報)經過表

其一 上奏案、豫算案、法律案及建議案

件 名	可 決	提 出 者
開院式 勅語奉答文案	全會一致	起草委員
大正三年度歲入歲出總豫算追加案(緊急事件)	兩院通過(全會一致)	政府
臨時軍事費豫算案(同上)	同	同
大正三年臨時事件ニ關スル臨時軍事費特別會計法案(同上)	兩院通過	同

件	輸入税率等ノ特例ニ關スル法律案(緊急事件)(修)	可決	提出者
件	戰時海上保險ニ關スル法律案(同上)(修)	同	同
件	(右ハ戰時海上保險補償法案ト改題ス)		
件	蠶絲業救済ニ關スル建議案	可決	外武藤二十名 外藤二十名 外藤二十名 外藤二十名
計	七		
件	(備考) 一件名ノ下ニ(修)トアルハ本院ノ修正ニ係ル		
件	其二 請願 (議院法第六十四條第 二項ニ依レルモノ)		
件	(特別報告第一號)蠶絲業救済ニ關スル請願	採擇	議決ヲ要セス
件	(特別報告第二號)軍人恩給法改正ノ請願外一件		
件	(特別報告第三號)棉花爲替取組ニ關スル請願		
計	四		

二

(備考)

一本表件名中ニハ數件ヲ包含セルモノアルニ依リ結果欄中ニハ特ニ數字ヲ掲記セリ

三 質問及答辯表

件	藥價暴騰ニ關スル件	名	書面答辯	提出者
		〃		鈴木萬次郎君

四 請願委員會議事經過表

件	蠶絲業救済ノ件	院議ニ付スヘシトスルモノ (特別報告)	院議ニ付スルヲ要セサルモノ (政府へ參考送付)	審査未了	計
件	軍人恩給法中改正ノ件	一			一
件	棉花爲替取組ニ關スル件	二			二

附錄 質問及答辯表 請願委員會議事經過表

三

件名	廳府縣	件		計
		銘	過	
增毛支廳現在位置存續ニ關スル件			院議ニ付スヘシトスルモノ (特別報告)	
海軍軍人遺族扶助料下賜ノ件			院議ニ付スルヲ要セサルモノ (政府へ參考送付)	
郵便局設置ノ件		四	審査未了	四
蠶絲業救濟ノ件	東京府	一		一
軍人恩給法中改正ノ件	京都府			一
棉花爲替取組ニ關スル件	大阪府			一
增毛支廳現在位置存續ニ關スル件	千葉縣			一
海軍軍人遺族扶助料下賜ノ件	北海道廳			一
	沖繩縣			一
計		七		七

五 請願呈出府縣別表

種別	選舉方法				付託件數	報告
	各部選舉	議長指名	豫算	決算		
計	四	五	七	二	一三	一

六 委員會表

種別	選舉方法				付託件數	報告
	各部選舉	議長指名	豫算	決算		
計	四	五	七	二	一三	一

(備考)
一 常任委員ハ選舉手續ヲ省略シ前議會ノ常任委員ヲ其ノ儘選舉シタルモノト認メタリ

七 本會及委員會速記事務一覽表

會議ノ 日數	會議ノ 件數	會議ノ 回数	會議ノ 總時間	會議一日 平均時間	速記 總頁數	速記一日 平均頁數	速記者人員 及組數	速記者一組一日 平均速記時間	速記者一組一日 平均速記頁數
六日			五時十分	五十六分 四十分	三十二頁	五頁三三	二十組人	六分十八秒	〇頁六
三日	六件	十一回	十一時九分	三十三分 四十三分	五十四頁	十八頁	二十組人	四分四十七秒	二頁
九日			十六時九分	四十分 四十分	八十六頁	三三頁三		一分五秒	二頁六
合計									

(備考) 一 本會議ト委員會會議トハ日ヲ異ニシテ開カレタルニ非ス故ニ本表中本會議及委員會會議ノ日數
合計ハ延日數トシテ計算ス
一 本表中本會議日ニハ議院成立ノ日ヲ算入ス

八 議事錄、決議錄並議事日程表

議事錄	種別	號	數	期	間
五				自同大正三年九月	至同大正三年九月九日

九 印刷物表

決議	議事	日程	種	類	件	數	冊	(枚)	數
四		自同大正三年九月九日							九四日
豫算案提出文					二				二、三九四
政府提出法律案					三				二、三四〇
議員提出議案					一				七八〇
質問主意書					一				七八〇
請願文書表					一				六五五
委員會報告書					一				八、五八〇
委員會會議錄					一				二一、二五〇
衆議院公報					一〇				一一、〇〇〇

附錄 本會及委員會速記事務一覽表 議事錄、決議錄並議事日程表 印刷物表

種別	議事録	議事	席次部屬表	計	類件		冊(枚)數	
					數	冊	數	冊
					五	一	五七五	九〇〇
					五二		四九、〇五四	

一〇 傍聽券及傍聽人員表

種別	交際官	貴族院議員	官吏	公衆	新聞記者	計	配付		合計	傍聽
							通	常		
							二一〇	九四	二一〇	四
							二八五	九四	三七九	一二一
							三、七一〇	八〇九	四、五一九	一、四八六
							四、二〇五	九〇三	五、一〇八	二、一六七

一一 院内警察執行事務一覽表

項目	種別	件數
傍聽席ニテ冠物ヲ着シタルモノ		一二八
傘杖ノ類ヲ携帶シ入場セムトスルモノ		一七
特定ノ席ニ他ノ傍聽人ノ入りタルモノ		三八
席ノ前席ニ直立シテ他人ノ傍聽ヲ妨クルモノ		一〇三
椅子ニ上リ傍聽スルモノ		三六
傍聽人妄リニ廊下ヲ徘徊スルモノ		三七
入場券又ハ通券ナクシテ院内ヲ徘徊スルモノ		三
廊下其ノ他ノ場所ニテ通行ノ妨ケヲナスモノ		四
傍聽席ニテ高聲ニ談話スルモノ		一四
酩酊シテ入場セムトスルモノ		二
傍聽席ニテ睡眠スルモノ		一八

附錄 傍聽券及傍聽人員表 院内警察執行事務一覽表

書狀	種別	件	開	會	日	平均	中	均	數	注 意 事 項				項目											
										種	別	件	數												
計	一一	二五八	開	會	一	日	平	均	中	數	新聞記者等許可ナクシテ事務室又ハ部屋ニ入りタルモノ	議員ノ言論ニ對シ拍手シタルモノ	計	種											
											灰及芥捨場	室内、園内、厠、下水其ノ他不潔ノ箇所	携帶品ノ注意ヲ怠リタルモノ	無効傍聽券ニテ入場セムトスルモノ	火ノ元	別									
											四〇五	一	四	七二	九	二八	九	二二	三	件					
											三三、三	二五八	一	日	平均	中	均	數	七二	九	二八	九	二二	三	件
											三三、三	二五八	一	日	平均	中	均	數	七二	九	二八	九	二二	三	件
											三三、三	二五八	一	日	平均	中	均	數	七二	九	二八	九	二二	三	件
											三三、三	二五八	一	日	平均	中	均	數	七二	九	二八	九	二二	三	件
											三三、三	二五八	一	日	平均	中	均	數	七二	九	二八	九	二二	三	件
											三三、三	二五八	一	日	平均	中	均	數	七二	九	二八	九	二二	三	件
											三三、三	二五八	一	日	平均	中	均	數	七二	九	二八	九	二二	三	件

一一 文書及面會受付表

書狀	面會	計	件	開	會	日	平均	中	均	數
三、八〇七	一、三〇五	五、一七二	一	日	平均	中	均	數	三、八〇七	一、三〇五
四七五、九	一六三、一	六七一、三	一	日	平均	中	均	數	四七五、九	一六三、一

一三 委員氏名錄

本會期中全院委員長、常任委員及特別委員左ノ如シ

○全院委員長

川原茂輔君

○豫算委員

委員長 井上角五郎君

理事 翠川鐵三君

理事 粕谷義三君

理事 秋岡義一君

理事 鈴木梅四郎君

理事 早速整爾君

第一部

井上角五郎君

秋岡義一君

若尾幾造君

田代進四郎君

翠川鐵三君

早川鐵冶君

小河源一君召集不
參二付其ノ補闕
鈴木寅彦君

第二部

中村啓次郎君

田中隆三君

床次竹二郎君

江藤哲藏君

中安信三郎君

黒須龍太郎君

守屋此助君

第三部

清水市太郎君

戸水寛人君

小久保喜七君

横田孝史君

町田忠治君

高木益太郎君

片桐西次郎君

第四部

澤 來太郎君

林 永太君

竹越與三郎君

岡田泰藏君

井上敏夫君

横尾輝吉君

小泉又次郎君

第五部

葉住利藏君

小山完吾君

板東勘五郎君

元田 肇君

本田恆之君

片岡直温君

早速整爾君

第六部

小川平吉君

岡崎邦輔君

則元由庸君

阿部徳三郎君

秋田 清君

鈴木梅四郎君

小山谷藏君

第七部

粕谷義三君

吉植庄一郎君ノ補闕
指田義雄君

三浦覺一君

藏原惟郭君召集不
參二付其ノ補闕
阪本彌一郎君

島田三郎君

録附 委員氏名錄

吉田圓助君 八田裕二郎君

第八部

上埜安太郎君 大岡育造君

伊藤要藏君

渡邊 修君

荒川五郎君

大石正己君 犬養 毅君

第九部

樋口典常君 三土忠造君

望月右内君

加藤政之助君

人見米次郎君

岡部次郎君 田川大吉郎君

○決算委員

委員長 板倉 中君 理事 申本康三君

理事 井上篤太郎君

理事 遠藤良吉君 理事 一坂俊太郎君

理事 平野龜之助君

第一部

木津太郎平君 光森德治君

佐々木仙一君

安村竹松君

松村時次君

第二部

井坂光暉君 堀内啓治君

帆足隼太郎君

目黒孝平君

平野龜之助君

第三部

井深彦三郎君 相川久太郎君

須藤嘉吉君

菊池武德君

山谷虎三君

第四部

藏内治郎作君 熊谷直太君

一坂俊太郎君

大森與三次君

森田小六郎君

第五部

井上篤太郎君 松浦五兵衛君

有馬秀雄君

矢島八郎君

風間禮助君

第六部

森川源吾君 高鍋篤郎君

金子圭介君

西 英太郎君

山道襄一君

第七部

申本康三君 麓 純義君

眞館貞造君

坂口拙三君

清水仁三郎君

第八部

森 茂生君 板倉 中君

武部其文君

狩野雄一君

奥山寛平君

第九部

遠藤良吉君 吉原祐太郎君

早川龍介君

加瀬禧逸君

大西五一郎君

○懲罰委員

委員長 横田千之助君 理事 伊東知也君

理事 岩本平藏君

附錄 委員氏名錄

理事 工藤吉次君

第一部

丸尾光春君 岩本平藏君 齋藤隆夫君

第二部

岸本賀昌君 早川六三郎君 國光五郎君

第三部

伊藤祐一君 野村嘉六君 菊池侃二君

第四部

工藤吉次君 岩田大中君 阪本彌一郎君

第五部

横田千之助君 木下成太郎君 山宮藤吉君

第六部

加藤新次郎君 細梅三郎君 清水隆徳君

第七部

根岸嶮太郎君 伊東知也君 安田伊左衛門君

○請願委員

委員長 長島鷺太郎君 理事 春田祐清君 理事 大田喜六君

理事 武滿義雄君

第一部

高島茂平君 鈴木 巖君 佐野喜平太君 井上廣居君 伊藤英一君

第二部

大橋松二郎君 戸狩權之助君 水間此農夫君 井手三郎君 平山岩彦君

第三部

森田俊左久君 長島鷺太郎君 春田祐清君 加賀卯之吉君 杉山東太郎君

第四部

根本 正君 武滿義雄君 小出五郎君 半谷清壽君 阿由葉鎗二郎君

附錄 委員氏名錄

第五部

若杉喜三郎君 廣澤辨二君 志々目藤彦君 大原義剛君 大口喜六君

第六部

本出保太郎君 津島源右衛門君 關 信之介君 福田善三郎君 松本恆之助君

第七部

大久保弁太郎君 友常穀三郎君 渡邊國重君 林 毅陸君 平出喜三郎君

第八部

瀨戸山清彦君 川真田德三郎君 吉田定之助君 川上淳一郎君 豊福泰造君

第九部

福井準造君 佐藤信古君 鈴置倉次郎君 中山梅治郎君 才賀藤吉君

○開院式 勅語奉答文起草ノ件委員

委員長 元田 肇君 理事 花井卓藏君

大岡育造君 岡崎邦輔君 戸水寛人君 長島鷺太郎君 日下義雄君

高田 露君 大久保弁太郎君 西谷金藏君 福岡精一君 大石正己君

河野廣中君 島田三郎君 箕蒲勝人君 犬養 毅君 古島一雄君
菊池侃二君

○大正三年臨時事件ニ關スル臨時軍事費特別會計法案委員

委員長 柚木慶二君 理事 米田 穰君 坂口仁一郎君

理事 吉田圓助君

白川友一君 吉田虎之助君 三輪市太郎君 大橋松二郎君 高津仲次郎君

遠藤良吉君 石川甚作君 濱田政壯君 高橋久次郎君 鈴置倉次郎君

山田珠一君 中山梅治郎君 林 毅陸君 大西五一郎君

○蠶絲業救済ニ關スル建議案委員

委員長 武藤金吉君 理事 西谷金藏君 理事 矢島浦太郎君

笠原忠造君 井上篤太郎君 岡田泰藏君 松本孫右衛門君 吉原祐太郎君

山本七朗君 若尾幾造君 水間此農夫君 半谷清壽君 須藤嘉吉君

木村 良君 小西 和君 高柳覺太郎君 岡部次郎君 風間禮助君

附錄 委員氏名錄

○輸入税率等ノ特例ニ關スル法律案委員

- 委員長 山本悌二郎君
- 理事 福井準造君
- 理事 小寺謙吉君
- 白石直治君
- 安藤新太郎君
- 西風重遠君
- 小泉策太郎君
- 濱本義顯君
- 富安保太郎君
- 小林源藏君
- 高橋光威君
- 岡崎久次郎君
- 町田忠治君ノ補闕 國光五郎君
- 加藤政之助君
- 大口喜六君
- 柏原文太郎君
- 高野金重君
- 有田溫三君

○戰時海上保險ニ關スル法律案委員

- 委員長 鵜澤總明君
- 理事 小坂順造君
- 理事 阪本彌一郎君
- 理事 犬飼源太郎君
- 東 武君
- 松田源治君
- 川村 暉君
- 三谷軌秀君
- 恆松隆慶君
- 川真田德三郎君
- 有馬秀雄君
- 小出五郎君
- 片岡直溫君
- 鈴木萬次郎君
- 早川鐵冶君
- 人見米次郎君
- 加瀬禧逸君
- 中川虎之助君

一四 本院高等官氏名錄

書記官長

林田龜太郎

書記官

- 議事課長 寺田 榮
- 警務課長 津久井利行
- 委員課長 佐々田 彰夫
- 庶務課長 辛島 知己
- 委員課長 兼速記 津久井利行
- 庶務課長 兼圖書 辛島 知己

日本國高等官及令

三十二

林田善太郎

林田善太郎

林田善太郎

林田善太郎

林田善太郎

大正三年十一月十三日印刷
大正三年十一月十六日發行

衆議院事務局

東京市京橋區日吉町十番地

印刷者 渡邊爲藏

東京市京橋區日吉町十番地

印刷所 民友社



14

大正三年十一月十六日發行
大正三年十一月十三日印刷

伯羅 兄 式 抽

東京山本堂印刷所

伯羅 弟 式 抽

東京山本堂印刷所

東京山本堂印刷所

14

14.3
51=

14

14,3
51

